

第二十三條 電氣事業法第七條第一項及第八條ニ規定シタル行政官廳ノ職權ハ市區ニ在リテハ地方長官、其ノ他ノ地ニ在リテハ郡長、支廳長又ハ島司之ヲ行フ

市町村長ノ職務ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第二十四條 電氣事業法第七條第一項ニ依リ電氣工作物ノ施設ニ關シ測量又ハ工事ノ爲メ土地立入ノ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ
一、立入ノ目的

二、電氣事業及電氣工作物ノ種類

三、立入ルヘキ土地ノ區域

四、立入ルヘキ豫定時期及期間

許可ヲ得タル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ市町村長ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

一、前項各號ノ事項

二、許可ヲ與ヘタル行政官廳名及許可ノ年月日

第二十五條 電氣事業法第七條第一項ニ依ル市町村長ノ告示ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一、電氣事業者名

二、前條第一項各號ノ事項

三、許可ヲ與ヘタル行政官廳名並許可年月日

告示ハ市町村役場ノ揭示場ニ揭示シ又ハ其ノ地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ公告スヘシ土地ノ占有者ニ通知スル場合ニハ第一項ノ規定ヲ準用ス其ノ通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 電氣事業法第八條第一項ニ依リ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルカ爲メ許可ヲ受

ムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一、電氣事業ノ種類

二、關係電線路ノ種類及電壓

三、障害ノ原因及程度、障害除却ノ方法及其ノ範圍並其ノ實行ノ時期

四、植物ノ存在地及其ノ所有者ノ氏名並住所

五、損失補償ノ見積金額及内譯

六、所有者ト協議整ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル理由

前項ノ申請書ニハ植物ノ存在地及附近ノ概況等ヲ記載シタル圖面ヲ添付スヘシ

電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

一、第一項第三號及第五號ノ事項

二、許可ヲ與ヘタル行政官廳名及其ノ許可年月日

第二十七條 電氣事業法第八條第二項ニ依リ提出スル竹木其ノ他ノ植物ノ伐除又ハ移植ニ關スル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、前條第一項第一號乃至第五號ノ事項

二、危險急迫ノ事實

電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ニハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十八條

電氣事業法第七條第八條又ハ第十條ニ依リ土地又ハ建造物ニ立入り又ハ竹木其ノ他

ノ植物ヲ伐除若ハ移植セムトスル者ハ電氣事業者タル證票ヲ携帯スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受クヘキモノナルトキハ其ノ許可書ノ謄本ヲモ携帯スヘシ

前項ニ依リ携帯スル證票ハ土地若ハ建造物又ハ植物ノ管理者ニ對シ之ヲ呈示スヘシ其ノ管理者ヨリ許可書謄本ノ呈示ヲ請求セラレタルトキ亦同シ

電氣事業者ハ第一項ニ依リ携帯スヘキ證票ノ見本ヲ作業ノ日ヨリ少クトモ二日前ニ作業地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十九條

電氣事業法第十條第二項ニ依リ土地使用ニ關スル許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ

左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

- 一、電氣事業ノ種類、電線路ノ構造大要及電壓
- 二、電線路施設ノ爲メ當該地點使選定ヲ必要トスル事由
- 三、使用ノ範圍及土地ノ地目、番號
- 四、使用ノ期間
- 五、工事ノ着手及落成期限

六、現在ノ土地使用方法

七、損失補償ノ見積金額及内譯

八、所有者若ハ占有者ト協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由

九、土地所有者ノ氏名並住所

前項ノ申請書ニハ圖面電線路ノ中心線、電柱其ノ他支持物、家屋其ノ他ノ建造物、圍障、庭園、池沼、田畑、森林、野地其ノ他ノ狀況ヲ詳記シ且縮尺ヲ掲クヘシヲ添付スヘシ

第三十條 電氣事業法第十條第二項ニ依リ電氣事業者ヨリ土地ノ所有者及占有者ニ對スル通知ハ地方長官ノ許可書ノ謄本ヲ添へ前條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 電氣事業法第十一條第一項ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ關スル請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

一、請求ノ目的

二、變更スヘキ土地使用方法

現存電線路ノ工事着手ノ際及現在ニ於ケル土地使用方法ヲ附記スヘシ

三、土地使用方法變更ノ結果カ電氣工事規定ニ牴觸スル事由

四、土地使用其方法變更ノ豫定期限
第三十二條 電氣事業者前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ相當期間内ニ其ノ請求ニ應スルヤ否ヤヲ請求者ニ通知スヘシ

電氣事業者前條ノ請求ニ應スル場合ニ於テハ電氣事業法第十一條第二項但書ニ依リ請求者ノ負擔スヘキ費用ノ擔保トシテ工事費見積額ニ相當スル金額ヲ其ノ工事着手前ニ供託スルコトヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 電氣事業者電氣事業法第十一條第一項ニ依リ請求セラレタル障害豫防又ハ除却工事ニ着手シタルトキ及之ヲ竣成シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨請求者ニ書面ヲ以テ通知スヘシ
電氣事業法第十一條第一項ニ依リ請求シタル者其ノ土地使用方法ノ變更ニ着手シタルトキ及之ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨電氣事業者ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

第三十四條 電氣事業法第十二條ニ依リ裁定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル正副二通ノ申請書ヲ作成シ當該行政官廳ニ提出スヘシ
一、申請人及相手方ノ氏名又ハ商號及住所
二、裁定事件ノ表示
三、申請ノ目的及事由

前項ノ申請書ヲ受理シタル行政官廳ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムルヘシ必要ト認ムルトキハ申請人又ハ相手方ヨリ更ニ辯駁書、答辯書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

トアルヘシ

指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ行政官廳ハ申請書ノミニ依リテ裁定スルコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第三十五條 裁定ヲ爲シタル行政官廳ハ理由ヲ付シタル書面ヲ以テ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ
第三十六條 電氣事業法第十三條ニ依リ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置變更ニ關シ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ電氣工作物施設地ヲ管轄スル遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ提出スヘシ

- 一、變更ヲ必要トスル事由
- 二、現存工作物ノ施設場所、種類及構造並所屬電氣事業者名、
- 三、施設セムトスル、工作物ノ施設場所、種類及構造
- 四、工作物相互ノ位置並其ノ附近ニ於ケル他ノ地中工作物トノ關係狀態
- 五、現存工作物ノ變更方法
- 六、變更工事ノ着手及落成期限
- 七、變更工事費見積金額及内譯

前項ノ申請書ニハ圖面ヲ添付スヘシ
電氣事業者前項ノ許可ヲ得タルトキハ許可書ノ謄本ヲ添へ第一項各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ相手方ニ通知スヘシ

第三十六條ノ二 電氣事業法第十四條ノ二ニ依リ電氣ノ流用ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ

工事費負擔方法、電氣供給料金其ノ他第一條第二項第二號ニ準スル事項ヲ記載シタル契約書ノ
謄本ヲ添付シ第六條ニ依ル起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項變更ニ關スル申請ヲ爲スヘシ
但シ起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項變更ニ關スル申請ヲ爲スヘシ但シ起業目論見書又ハ
工事設計書中ノ事項ニ變更ヲ生セサルモノニアリテハ該契約書ノ謄本ヲ添付シ其ノ工事方法ヲ
遞信大臣ニ届出ツヘシ
流用ノ命令ヲ受ケタル者協議調ハサル場合ニ於テハ指定ノ期間内ニ第三十七條ニ依ル裁定ノ申
請ヲ爲スヘシ

第三十七條 電氣事業法第十六條ニ依ル裁定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル正副二通
ノ申請書ヲ作成シ電氣工作物施設地ヲ管轄スル遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ提出スヘシ

一、申請人ノ商號又ハ氏名及住所

二、裁定事件ノ表示

三、申請ノ目的及理由

四、協議調ハサル顛末

裁定ニ關シテハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第四章 主任技術者

第三十八條 電氣事業者ハ工事着手前ニ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ノ缺位ヲ生シタルトキハ電氣事業者ハ遲滞ナク其ノ後任者ヲ選任スヘシ

第三十九條 主任技術者ハ左ノ區別ニ從ヒ電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル相當ノ資格ヲ

有スル者及電氣技術者ノ經驗ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

電氣事業ノ種類

電氣事業主任技術者

電氣供給事業及電氣鐵道事業

第一種ノ資格ヲ有スル者

三万五千「ヴォルト」以下ノ電
氣給事業及電氣鐵道事業

第二種ノ資格ヲ得タル後二年以上電氣技術ノ經驗ヲ有ス
ル者又ハ從前ノ規定ニ依リ第二級ノ資格ヲ有スル者

一万五千「ヴォルト」以下ノ電氣
供給事業及電氣鐵道事業

第二種ノ資格ヲ有スル者

低壓又ハ高壓ノ電氣供給事業

第三種ノ資格ヲ得タル後二年以上電氣技術ノ經驗ヲ有ス
ル者又ハ從前ノ規定ニ依リ第四級ノ資格ヲ有スル者

低壓又ハ百「キロワット」以下
ノ高壓電氣供給事業

第三種ノ資格ヲ有スル者

二十「キロワット」以下ノ低壓
又ハ高壓電氣供給事業

電氣技術ニ關シ相當ノ學術經驗ヲ有スト認定セラレタル
者又ハ從前ノ規定ニ依リ第六級ノ資格ヲ有スル者

前項ノ主任技術者ハ特殊ノ事由アル場合ニ限り遞信大臣ノ認可ヲ得テ二箇以上ノ電氣事業ニ兼
務スルコトヲ得

前項ノ認可申請書ハ所轄遞信局長ヲ經由スヘシ

第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歷書ヲ添へ遞信大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變
更シタルトキ亦同シ

主任技術者ニ缺位ヲ生シタルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ届出ツヘシ

本條ノ届書ハ所轄遞信局長ヲ經由スヘシ

第四十一條 遞信大臣ニ主任技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲アリ

ト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ
 第四十二條 主任技術者疾病旅行其ノ他ノ事由ニ依リ一月以上ニ亘リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ履歷書ヲ添ヘ其ノ旨所轄遞信局長ニ届出ツヘシ
 第四十三條 本令ニ依リ官廳ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但シ第三十八條ニ依ル主任技術者ノ選任前ニ在リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スヘシ

第五章 檢査

第四十四條 電氣事業ノ第十二條、第十八條第一項第十九條第一項又ハ電氣工作物規定ニ依リ認可ヲ得タル工事落成シタルトキハ遲滞ナク其認可ヲ與ヘタル官廳ニ届出ツヘシ
 第二十條第一項及第二十條ノ二ノ場合ニ於ケル工事落成シタルトキハ所轄遞信局長ニ第二十條第二項ノ場合ニ於ケル工事落成シタルトキハ遞信大臣ニ届出ツヘシ
 前各項ノ届出ハ電報電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

本條ニ依リ遞信大臣ニ届出ツヘキ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ
 第四十五條 電氣事業者ハ火藥其ノ他爆發生ノ物質ヲ製造又ハ藏置スル場所ニ電氣工作物ヲ施設シタルトキハ遲滞ナク工事方法ヲ具シ工作物施設地ヲ管轄スル遞信局長ニ届出ツヘシ
 第四十六條 第四十四條第一項第二項又ハ前條ニ依リ届出アリタルトキハ當該官廳ハ檢査吏員ヲ派遣シ其ノ落成シタル電氣工作物ヲ檢査セシメタル上使用認可證ヲ交付ス但シ特ニ檢査ノ必要

ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ

電氣工作物規程ニ依リ認可ヲ得タル工事ニ在リテハ前項ノ規定ヲ適用セス檢査ノ結果改修ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ改修工事落成シタルトキハ前二條ニ準シ届出ツヘシ

第四十七條 檢査吏員ニ於テ危險ナシト認メタルトキハ直ニ假使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ假使用認可證ノ有効期間ハ六十日トス

第四十八條 第二十條ノ復舊工事落成シタルトキハ第十八條ニ掲グル事項ニ變更ヲ生セサル場合ニ限リ使用認可證ヲ受ケスシテ其ノ落成電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 第十二條ニ依リ認可ヲ得タル工事落成シタルトキハ電氣事業者ハ電氣工作物竣功明細書別記第五號様式ヲ調製シ該工作物檢査ノ爲派遣セラレタル檢査吏員ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツ

ヘシ但シ檢査ヲ受ケスシテ使用認可證ヲ交付セラレタルトキハ直ニ遞信大臣ニ届出ツヘシ
 増設又ハ變更工事ノ落成ニ因リ電氣工作物竣功明細書中ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ落成電氣工作物カ使用認可證ヲ受ケスシテ使用シ得ルモノナルトキハ直ニ遞信大臣ニ届出ツヘシ

電氣事業者ハ前二項ニ依ル明細書ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ
 本條ノ届出テハ遞信局長ノ認可ヲ得タル工事ニ在リテハ當該局長ニ之ヲ爲スヘシ

第四十九條ノ二 遞信大臣ハ左ノ場合ニ於テ檢査吏員ヲ派遣シ電氣工作物ヲ臨時檢査セシム
 一、天災事變其ノ他ノ事故ニ依リ電氣工作物ニ著シキ障害アリト認メタルトキ

二、電氣工作物カ他ノ工作物ニ著シキ障害ヲ及ホシタリト認メタルトキ
三、電氣工作物ノ變更ニ因ラスシテ發電所出力増加ノ認可申請アリタルトキ

第六章 業 務

第五十條 電氣供給事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス
第五十一條 電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スヘキ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメサルコトヲ要ス且電燈供給ノ場合ニ在リテハ技術上己ムヲ得サルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生セシメサルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限リニ在ラス

第五十二條 電燈ノ光力ヲ表示スルニハ燭光ヲ以テ單位トス
一燭光ハ氣壓七百六十「ミリメートル」ノ時一立方「メートル」ニ付八「リットル」ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃燒スル「ハーコート」氏十燭光「ペンテーン」燈ノ光力ノ十分ノ一トス

第五十三條 光力ヲ以テ契約スル電燈供給ニ使用スル白熱電燈球ニハ燭光及電壓ヲ指示スヘシ
前項ノ指示燭光數ハ平均水平燭光ヲ以テ表示シ其ノ誤差ハ百分ノ十ヲ超過セサルコトヲ要ス
第五十四條 電氣事業者カ白熱電燈球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ其ノ光力取付後ノ使用ニ依リ指示電壓ニ於テ指示燭光數ノ百分ノ八十以下ニ減少シ且需要者ノ請求アルトキハ電氣事業者ハ新ナル電燈球ト取換ヲ爲スヘシ

第五十五條 電氣供給事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣供給規定ノ届出ヲ爲スヘシ

第五十六條 電路ハ常ニ之ヲ検査シ安全ト認ムルニ非サレハ之ヲ送電スルコトヲ得ス

第五十七條 電氣供給事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス

第五十八條 修繕其ノ他ノ原因ニ依リ送電ヲ中止スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ關係需要者ニ豫告スヘシ

第五十九條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ保安上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ要所ニ技術員ノ散宿所ヲ設置セシメ其ノ在勤ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ散宿所ニハ公衆ノ踏易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ
第六十條 電氣事業者ハ保線係員ヲシテ常時電線路ヲ巡視セシムヘシ

第六十一條 電氣事業者ハ送電中出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險ナリト認ムル區域内ノ架空電線ニ對シ速カニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ
第六十二條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シ

危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出テシムヘシ其ノ技術員ハ警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス
出火ノ場所ニ派遣ノ技術員ニハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十三條 前二條ニ依リ使用スヘキ標旗及標燈ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十四條 電氣事業者ハ每事業決算期ニ於テ別ニ定ムルトコロニ依リ電氣事業豫告書ヲ作成シ
決算期後一月内ニ遞信大臣ニ届出スヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ一年毎ニ届出スヘシ

第六十五條 電氣事業者ハ別ニ定ムルトコロニ依リ電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事
故ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ遲滞ナク遞信大臣ニ届出テ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地
方長官及遞信局長ニ提出スヘシ

- 一、會社成立シタルトキ
- 二、會社ノ取締役、監査役ヲ選任若ハ改任シタルトキ、總社員ノ同意ヲ以テ代表社員ヲ定メタ
ルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキ
- 三、營業所又ハ事務所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ
- 四、事業ヲ開始シ又ハ休止若ハ廢止シタルトキ

第六十七條 電氣事業者カ電氣事業ノ爲ニ社債ヲ發行シタルトキ若ハ借入金ヲ爲シタルトキハ左
ノ事項ヲ具シ遞信大臣ニ届出テ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地方長官ニ提出スヘシ

- 一、社債ノ發行又ハ借入金ヲ爲ス事由
- 二、社債又ハ借入金ノ總額

第七章 監査

第六十八條 遞信大臣ハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況又ハ事業經營ノ實況ヲ監
査セシムルトアルヘシ

遞信大臣ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ
他物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲スコトアルヘシ

見本ノ運搬ニ要スル費用並試験ニ因リテ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第六十九條 遞信大臣ハ既設若ハ工事中ノ電氣工作物カ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ナリト認ムル
トキハ改修撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルトアルヘシ

第七十條 遞信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ事業經營上必要ナル設備ノ變
更又ハ増設ヲ命スルトアルヘシ

第七十條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ公益上必要ト認ムルトキハ電氣事業ノ實況ヲ監査シ且
危險急迫ノ場合ニ在リテハ電氣事業者ニ對シ保安上必要ナル措置ヲ命スルトアルヘシ

第七十一條 電氣供給事業者カ供給區域内ノ一部分ニ於ケル事業ヲ開始シタル後久シキニ亘リ其
ノ殘餘部分ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲サ、ルトキハ遞信
大臣ハ許可ノ一部ヲ取消スコトアルヘシ

第七十二條 道路又ハ他人ノ土地ニ施設シタル電線路ニシテ其ノ使用ヲ廢止シタルモノハ電氣事
業者之ヲ撤去スヘシ

需用場所ニ施設シタル電氣工作物ニシテ電氣事業者ニ屬スル物ハ需用者ヨリ撤去ノ請求アリタ
ルニ依リ撤去スヘシ

ルトキ亦前項ニ同シ

電氣事業者電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ亘リ之レカ使用ヲ爲サ、ルトキハ遞信大臣ハ其ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第八章 罰 則

第七十三條 本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク検査若ハ監査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十四條 本令ノ規定ニ依ル届出又ハ通知ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 第二十八條ノ規定ニ依リ證票及許可書ノ謄本ヲ携帶セス又ハ證票ヲ呈示セスシテ土地又ハ建造物ニ立入り又ハ植物ヲ伐除若ハ移植シタル者ハ科料ニ處ス

管理者ヨリ請求ヲ受ケタルニ拘ラス許可書ノ謄本ヲ提示セサル者亦同シ

附 則

第七十六條 本令ハ電氣事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣事業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第七十七條 本令ニ依リ遞信局長ヲ經由スヘキ書類圖面ニシテ訂正ニ係ルモノハ遞信大臣ニ於テ指示シタル場合ニ限り直接ニ之ヲ提出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ訂正ニ係ル書類圖面ノ副本ヲ當該遞信局長ニ提出スヘシ

第七十八條 電氣事業法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ同法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許

可ヲ受ケタル者ニ對シ本令施行前ニ於テ爲シタル處分ハ本令ノ規定ニ牴觸スル者ヲ除クノ外本令施行後ト雖モ猶其ノ効力ヲ有ス

第七十九條 本令施行前ニ於テ電氣事業取締規則ニ依リ提出シタル許可又ハ認可ノ申請ニシテ本令施行ノ際マテニ處分ヲ受ケサル者ハ本令施行後ニ於テハ本令ニ依リ提出シタルモノト看做ス但シ本令ノ規定ニ依リ提出ヲ要スル書類圖面ハ更ニ之ヲ補充セシムルコトアルヘシ

第八十條 本令施行前ニ於テ許可ヲ得タル電氣鐵道事業者ハ軌道條例ニ依ルモノヲ除クノ外第三條ノ起業目論見書第四條ノ工事設計書第四號乃至第八號ノ事項ヲ除ク第十五條ノ工事設計明細書第十六條ノ實

測圖及第一條第二項中ノ關係書類ヲ調製シ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

○電氣事業法第十七條ニ依ル電氣事業法ヲ準用スルノ件

(明治四十四年八月二十九日 勅令 第二一三七號)

重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ關シテハ電氣事業法第三條第五條及第六條ノ規定ヲ除クノ外同法ヲ準用ス遞信大臣ニ於テ前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ事業者事業ノ種類及事業地ヲ公告スヘシ

附 則

本令ハ明治四拾四年拾月壹日ヨリ之ヲ施行ス

三七四

○電氣事業法準用ニ關スル規則

(大正四年四月一日
遞信省令第二三號)

第一條 明治四拾四年勅令第貳百參拾七號ニ依リ電氣事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類圖面ヲ具シテ申請スヘシ

一、重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業タルコトノ事由ヲ記載シタル書面

二、事業計畫書(電氣事業法施行規則第一條

乃至第四條ニ準スル事項ヲ具備スヘシ)自家用電氣工作物施設規則ニ依リ既ニ

電氣工作物施設ノ認可ヲ得タルモノニ在リテハ其旨附記スヘシ

第二條 事業ノ認定公告ハ官報ニ依リ之ヲ爲ス其ノ公告事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三條 事業ノ認定ヲ受ケタル後事業計畫書中電氣事業法施行規則第六條第一項各號ノ事項ニ準スル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ遞信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

事業計畫書中前項以外ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ

第四條 第一條及第參條ノ申請及届出ニ關シテハ電氣事業法施行規則第五條ノ規定ヲ準用ス

第五條 事業ノ認定ヲ受ケントスル者又ハ其ノ認定ヲ受ケタル者ノ電氣工作物施設ニ關シテハ自

家用電氣工作物施設規則第三條第二項ニ該當スルモノト雖同條第三項ニ依リ遞信大臣ニ其ノ認

可ヲ申請スヘシ但シ認定前既ニ遞信局長ノ認可ヲ受ケタル者ハ同規則ニヨリ遞信大臣ノ認可ヲ

受ケタルモノト看做ス

第六條 事業ノ認定ヲ受ケタルモノ自家用電氣工作物施設規則ニ依リ電氣工作物施設ノ認可ヲ受

ケタル後第三條第一項ニ依リ事業計畫書中ノ事項變更ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ申請事

項カ自家用電氣工作物施設規則第四條ノ計畫書中ノ事項ニ相當スルモノナルトキハ該申請書中

ニ其ノ旨ヲ明記シ別ニ同規則ニ依リ認可申請書ヲ提出スルコトヲ要セス前項ノ申請ニ對シ認可

ヲ受ケタルトキハ自家用電氣工作物施設規則ニ依リテモ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

前各項ノ規定ハ第三條第二項ニ依リ届出チナス場合ニ於テ其ノ事項カ自家用電氣工作物施設規

則ニ依リ届出ツヘキ事項ニ相當スルモノニ關シ之ヲ準用ス

第七條 認定ヲ受ケタル事業ニ關シテハ電氣事業法施行規則第二十三條乃至第三十七條第五十一

條第五十二條第七十條第七十四條第七十五條及明治四拾四年九月遞信省令第二十九號ノ規定ヲ

準用ス

第八條 事業ノ認定ヲ受ケタルモノニシテ其ノ計畫ヲ變更シ遞信大臣ニ於テ認定ノ必要ナシト認

メタルモノ又ハ指定ノ期間内ニ自家用電氣工作物施設規則ニ依リ電氣工作物施設ノ認可ヲ申請

セサルモノ其ノ他久シキニ亘リ工作物ノ施設ヲ爲サ、ルモノハ其ノ認定ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ認定取消ハ之ヲ官報ニ公告ス

事業ノ認定ハ前項ノ公告アリタル日ヨリ其ノ効力ヲ失フ

第九條 本令ノ規定ハ官廳施設電氣事業規則第五條ニ依リ電氣工作物ノ施設ニシテ電氣事業法ヲ

準用スヘキ事業ノ認定ヲ受ケムトスルモノニ之ヲ準用ス

三七五

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四拾四年九月遞信省令第三十號ハ之ヲ廢止ス

官廳施設電氣事業規則

(明治四十四年十月十六日
遞信省令第三十六號)

官廳施設電氣事業規則左ノ通定ム

官廳施設電氣事業規則

第一條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第一號ノ電氣事業ヲ營マントスルトキハ左ニ掲クル書類圖面ヲ具シテ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、設計書 電氣事業法施行規則第二條第二號第三號、第四條第一號乃至第三號及第八號第十三條第三號及第四號、第十四條ノ事業ヲ具備スルコトヲ要ス

二、圖面 同規則第十六條第一號及第二號ニ準シ作成スルコトヲ要ス

第二條 官廳ニ於テ電氣事業法第一條第二號ノ電氣事業ヲ營マントスルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一、鐵道構内ニ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス
二、前號ノ場合ト雖直流低壓以外ノ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキ若ハ金屬製地中管路ヨリ

九町以內磁力觀測所ヨリ一里半以內ノ場所ニ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキ又ハ電氣鐵道チ道路上ニ敷設セムトスルトキ其ノ他鐵道構外ニ亘リ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ左ニ掲クル書類ノ圖面ヲ具シ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一、設計書 電氣事業法施行規則第三條第二號第三號第四條第一號乃至第三號及第八號第十三條第三號及第四號、第十五條事項ヲ具備スルコトヲ要ス

二、圖面 同規則第十六條第一號及第二號ニ準シ作成スルコトヲ要ス

本號ニ依リ承認ヲ受クルヲ要セサル部分ト雖モ承認ヲ受クヘキ電氣工作物ニ直接關係アル必要部分ハ之ヲ前記ノ書類圖面中ニ表示スルコトヲ要ス

第三條 第一條各號又ハ第二條第二號ニ掲クル書類圖面中ノ主要事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シテ更ニ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 前三條ニ依リ承認ヲ得タル工事落成シタルトキハ其ノ電氣工作物使用前其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第五條 官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強壓電流電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前自家用電氣工作物施設規則第四條ニ掲クル書類圖面ヲ具シ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス但シ自家用電氣工作物施設規則第一條但書ノ各號ニ該當スル電氣工作物ニ關シテハ此ノ限リニ非ス

前項ノ電氣工作物カ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ前項ニ準シタル書類圖面ヲ具シテ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

- 一、特別高壓電氣ヲ使用スルモノ
 - 二、構外ニ亘リ施設スルモノ
- 第六條 前條ニ依リ施設スル工事落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス
落成シタル電氣工作物ハ自家用電氣工作物施設規則第二條ニ掲クル第一種ニ該當スルモノヲ除ク
クノ外逓信大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第七條 第二條ニ依ル電氣工作物ニ關シテハ自家用電氣工作物施設規則第五條乃至第七條、第九條、第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第七條ノ二 電氣工作物施設官廳ハ左ノ場合ニ於テハ工事施行前工事方法ヲ具シ其ノ旨逓信大臣ニ報告シテ電氣ノ受給ヲ爲スコトヲ得
- 一、電氣工作物ヲ滅失又ハ損壞シタル場合ニ於テ電力ノ不足ヲ補給スル爲一ヶ月以内ヲ限り他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケムトスルトキ
 - 二、電氣事業法施行規則第二十條ノ二自家用電氣工作物施設規則第七條ノ二及前號ノ場合ニ於テ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケントスルモノニ電氣ヲ供給セムトスルトキ
- 第八條 官廳ニ於テ電氣工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

附 則

官廳施設電氣事業取締規定ハ之ヲ廢止ス

○自家用電氣工作物施設規則

(明治四拾四年九月二十八日 逓信省令第三一號)

- 第一條 本令ハ電氣事業法ニ依ルモノヲ除クノ外強電流電氣工作物ヲ施設スルモノニ之ヲ適用ス
但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限リニ在ラス
- 一、電壓拾「ヴォルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
 - 二、電車線其ノ他架空又ハ地中電線路ヲ施設セスシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 第二條 電氣工作物ヲ分チテ左ノ二種トス第一種一邸宅又ハ一構内ニ施設スル低壓ノ電氣工作物
但シ左ニ掲クル場所ニ施設スルモノハ之ヲ除ク
- (イ) 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生製造若ハ貯藏スル場所
 - (ロ) 劇場公會堂其ノ他公衆ノ來集ヲ目的トスル場屋
- 第二種、第一種以外ノ電氣工作物
- 第三條 第一種電氣工作物ヲ施設セントスルモノハ工事着手前其ノ施設地ヲ管轄スル逓信局長ニ届出ツヘシ
- 低壓又ハ五百「キロワット」未滿ノ高壓第二種電氣工作物ヲ施設セムトスル者ハ其ノ施設地ヲ管轄スル逓信局長ニ認可ヲ申請スヘシ特別高壓又ハ五百「キロワット」以上ノ高壓第二種電氣工作物ヲ施設セムトスル者ハ逓信大臣ニ認可ヲ申請シ同時ニ其ノ副本ヲ所轄逓信局長ニ提出スヘシ
- 第四條前條ニ依ル届出又ハ申請ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ

一、計畫書左ノ事項ヲ記載スヘシ

- (イ) 目的 電燈、電熱、電動力、電氣分解其
他電氣使用ノ目的ヲ記載スヘシ
- (ロ) 使用區域 邸宅、工場其ノ他使用場所ノ名稱及所在地名、專用
電氣鐵道ニ在リテハ其ノ敷設ノ場所ヲ記載スヘシ 平面圖使用區域ノ境界、專
ハ其ノ中心線、所在地名、道路、山川、
鐵道、軌道、要塞地等ヲ記載スヘシ 添付スヘシ
- (ハ) 發電所變電所蓄電所ノ位置
他ヨリ供給セラル、電力ヲ使用セムトスルモノニアリテハ其ノ供給者名及供給ヲ受クル地
點

(ニ) 發電所變電所、蓄電所、相互間ヲ連絡スル電線路及發電所、變電所、蓄電所ヨリ使用區
域ニ達スル電線路ノ經過地名 道府縣郡市區町村
名ヲ記載スヘシ

(ホ) 「キロワット」數、最大電壓及原動力ノ種類

二、工事設計明細書 電氣使用ニ目的ニ從ヒ電氣事業法施行規則
第十四條又ハ第十五條ニ準シ調製スヘシ

三、實測平面圖 電氣事業法施行規則第十六條ニ準シ調製スヘシ但シ同一圖
面ヲ以テ表示シ得ル場合ニハ適宜ニ併合省畧スルコトヲ得

四、工事成期限書 届出ノ場合ニハ添付
スルコトヲ要セス

五、水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノニ在リテハ發電水力ノ使用ニ關スル當該官廳ノ許可書
及命令書ノ謄本未タ其ノ許可ヲ得サルモノハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ記載セ
ル書面

六、他ヨリ供給セラルル電力ヲ使用セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書 供給地點
任分界點供給電力其ノ他供給上ノ謄本
ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第五條 第三條ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ認可ヲ得タル後前條計畫書中ノ事項 (ホ)「キロワット」數ノ
又ハ工事設計明細書中ノ左ニ掲グル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シ第三條ノ
規定ニ準シ當該官廳ニ届出又ハ認可ヲ申請スヘシ

一、發電所内設備

- (イ) 發電機 「キロワット」數又ハ「キロヴォルトアンペア」數(二割以上ノ變
更ヲ爲ス場合ニ限ル) 箇數、直流交流ノ別、電壓、相及周波數
- (ロ) 變壓機 一次電壓
二次電壓
- (ハ) 電動發電機、廻轉變流機及周波數變換機 直流交流ノ別
電壓
- (ニ) 保安裝置 種類及構
造ノ大要

二、送電線路

(1) 電氣方式相及最大電壓

(2) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造 架空電線路ニ在リテハ線條數、電線ノ種類太サハ電線ノ弛度並ニ支持物ノ強サニ關スル計算及構造地中電線路ニ在リテハ、線條數、電線ノ種類心線ノ種類、數、太サ、暗渠線渠及直接埋設等ノ別

三、變電所内設備

(1) 變壓器 發電所内設備

(2) 電動發電機、廻轉變流機及周波數變換機 發電所内設備

四、他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備

(1) 供給電力ニ割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル

(2) 送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備

(3) 保安裝置 發電所内設備

五、配電設備

(1) 電 壓

(2) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造 架空電線路ニ在リテハ電線ノ種類木柱、鐵柱鐵塔ノ別、柱間距離内三百尺以上ノ箇所ハ電

線ノ弛度並ニ支持ノ強サニ關スル計算及構造、地中電線路ニ在リテハ電線ノ種類心線ノ種類暗渠線渠及直接埋設等ノ別

(3) 變壓器 特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置及發電所内設備ノ(2)ノ事項

(4) 電動發動機、廻轉變流機、周波數變換機 特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置及發電所内設備ノ(2)ノ事項

(5) 保安裝置 發電所内設備

六、電氣鐵道饋電線路

(1) 電氣方式 直流交 流ノ別及電壓

(2) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造

七、電車線路及軌道

(1) 電氣鐵道方式

(2) 構造

前條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ第三條ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル當該官廳ニ届出ツヘシ

第六條 電氣工作物施設ノ認可ヲ得タル後邸宅構外ニ施設スル線電路引込線ヲ除ク又ハ軌道ヲ延長、増設リ線待避線ヲ除ク若クハ短縮シ又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ前條ノ規定ニ準シ認可ヲ申請スヘシ但シ送電開始後同一地域ニ於ケル低壓若ハ高壓電線路ニ關スル場合ニシテ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ變更ヲ生セザルモノナルトキハ此ノ限リニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ電氣工作物施設者ハ關係圖面ヲ具シ六箇月毎ニ所轄遞信局長ニ届出ツヘシ

第七條 認可ヲ得テ施設シタル電氣工作物ヲ滅失又ハ損壞シタルトキハ其復舊工事ハ認可ヲ得スシテ着手スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ發電所、變電所又ハ蓄電所内ニ於ケル復舊工事ニ關スルトキハ工事設計明細書中第五條ニ掲グル事項ヲ變更スル場合ト雖モ認可ヲ得スシテ其ノ工事ニ着手スルコトヲ得

第七條ノ二 第三條、第三項ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得タル電氣工作物施設者ハ左ノ場合ニ於テ其ノ工作物が第五條ニ掲グル事項ニ變更ヲ及ホス場合ト雖モ亦同シ

一、前條ノ場合ニ於テ電力ノ不足ヲ補給スル爲一箇月以内ヲ限リ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケムトスルトキ

二、電氣事業法施行規則第二十條ノ二官廳施設電氣事業規則第七條ノ二及前號ノ場合ニ於テ他

ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケムトスル者ニ電氣ヲ供給セムトスルトキ

第八條 電氣工作物施設者ハ工事着手前ニ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第二種電氣工作物ノ場合ニ於ケル主任技術者ハ電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依リ相當ノ資格ヲ有スル者及電氣技術ノ經驗ヲ有スル者ニ就キ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ選任スヘシ

電氣工作物ノ種類

電氣事業主任技術者

第一種ノ資格ヲ有スル者若ハ第二種ノ資格ヲ得タル後二年以上電氣技術ノ經驗ヲ有スル者

第二種ノ資格ヲ有スル者

使用電壓一萬五千「ヴォルト」以下ノ電氣工作物

第三種ノ資格ヲ得タル後二年以上電氣技術ノ經驗ヲ有スル者

又ハ從前ノ規定ニ依リ第四級ノ資格ヲ有スル者

使用電壓一萬五千「ヴォルト」以下ノ電氣工作物

第三種ノ資格ヲ得タル後二年以上電氣技術ノ經驗ヲ有スル者

又ハ從前ノ規定ニ依リ第四級ノ資格ヲ有スル者

低壓又ハ高壓ノ電氣工作物

第三種ノ資格ヲ有スル者

市街地以外ノ地域内ニ施設シタル低壓電氣工作物五十一キロワット以下ノ低壓市街地ニ施設セルモノ）又ハ高壓電氣工作物

電氣技術ニ關シ相當學術經驗ヲ有スルト認定セラレタル者又ハ從前ノ規定ニ依リ第六級ノ資格ヲ有スル者

特定ノ場所ニ施設スル試驗用特別高壓及他ヨリ供給セララル、電力ヲ構内ニ施設スル變電設備又ハ變電所ニ於テ送電上ノ責任分界點ヲ特別高壓側ニ設置シテ受電シ直チニ之ヲ低壓ニ變成シテ同一構内ニ使用スル第二種電氣工作物ニ關シテハ前項ノ規定ニ依ラスシテ高壓ニ準シ其主任技術者ヲ選任スルコトヲ得

前各項ノ外主任技術者代務者及擔當技術者ニ關シテハ電氣事業法施行規則第三十八條第二項第三十九條第二項第三項第四十條乃至第四十三條及電氣事業主任技術者檢定規則第十三條ノ規定ヲ準用ス

遞信局長ニ届出又ハ其ノ認可ヲ得タル電氣工作物ノ場合ニ在リテハ前項ニ依ル届出又ハ申請ハ當該局長ニ之ヲ爲スヘシ

第九條 本令ニ依リ施設スル電氣工作物ノ工事ニ關シテハ電氣工作物規程ヲ準用ス

第十條 第三條第二項第三項第五條又ハ第六條第一項ニ依リ認可ヲ得タル工事及第七條第一項並ニ第七條ノ二ニ於ケル工事落成シタルトキハ電氣工作物施設者ハ遲滯ナク其ノ認可ヲ與ヘ又ハ届出ヲナシタル官廳ニ其ノ旨届出ツヘシ

前項ノ届出ハ電報電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

電氣工作物規程ニ依リ認可ヲ得テ施設スヘキ工事落成シタルトキハ遲滯ナク其ノ認可ヲ與ヘタル官廳ニ其ノ旨届出ツヘシ

本條ニ依リ遞信大臣ニ届出ツヘキ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第十一條 前條第一項ノ届出アリタル場合ハ電氣事業法施行規則第四十六條及第四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ第七條第一項ニ依ル工事ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス前項ノ外本令ニ依ル電氣工作物ニ關シテハ電氣事業法施行規則第五十六條第五十九條乃至第六十三條、第六十五條第六十八條第六十九條第七十二條ノ規定ヲ準用ス電氣事業法施行規則第四十九條ノ規定ハ第二種電氣工作物ニ限リ之ヲ準用ス但シ遞信局長ノ認可ヲ得タル工作物ノ場合ニ在リテハ其ノ届出ハ當該局長ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條ノ二 一地點ニ於テ二千馬力理論馬力ニ依ル以上ノ水力ヲ使用スル電氣工作物施設者及遞信大臣ニ於テ特ニ指定ヲ爲シタル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ發電水力地點流量調表ヲ作製シ毎年三月

末日迄ニ所轄遞信局長ヲ經由シ遞信大臣ニ提出スヘシ

第十二條 電氣工作物施設者及代表者其ノ名義ヲ變更シタルトキ又ハ電氣ノ使用ヲ開始休止若ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク第三條ノ規定ニ準シ當該官廳ニ届出ツヘシ

第十三條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一、認可ヲ受ケスシテ認可ヲ受クヘキ工事ニ着手シタル者
 - 二、第七條第一項ニ依ル場合ヲ除ク外第十條第一項ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ヲ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受ケスシテ使用シタル者
 - 三、本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク監査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者
- 第十四條 本令ノ規定ニ依ル届出及調表ノ提出ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス
- 第十五條 前二條ノ罰則ハ刑法第三十九條及第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ行爲ヲ罰セサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

附 則

第十六條 本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 認可ノ申請其ノ他書類圖面ノ提出ニ關シテハ電氣事業法施行規則第七十七條及第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第十八條 本令施行前ニ於テ電氣事業取締規則ニ依リ工事施行ノ認可書ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル

モノハ本令ニ依リ第三條ノ區別ニ準シ認可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

○發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用ノ件(明治四十二年八月七日) 遞信省訓令第一號

發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲メ出願セル水ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ水力百馬力未滿ノモノヲ除クノ外電氣起業ノ目的並水力ニ關スル設計ノ大要及圖面ヲ具シ豫メ本大臣ヘ稟伺スヘシ

使用ノ讓渡其ノ他事業ニ著シキ變更ヲ許可セムトスルトキ亦同シ

○發電ノ原動力ノ用ニ供スル水利使用稟伺ニ

記載スヘキ事項ノ件

(大正九年八月二十四日電監第四三四八號) 各地方長官宛遞信省電氣局長通牒

發電水力ニ關スル稟伺ニハ稟伺手續(明治四十二年十月)ニ基キ電氣企業ノ概要ヲ記載シ御意見ヲ詳具セラルヘキノ處既設事業ニ發電水力ヲ利用スルニ在リテハ當該電氣企業自体ノ概要ノミナ

ラス既設ノ事業ニ就キテモ其ノ業体ノ大要(既設ノ電氣事業者又ハ著名ノ事業者)ニシテ業体明ナルモノハ之ヲ要セス

上御意見具申相成候様致度尙處理上必要ニ付發電水力使用ニ關シ貴官限リノ變更許可(百馬力未使用ニ付)セラレタルトキハ遲滯ナク其ノ都度御報告相成度又水力使用許可願書ハ爾今左記ニ依リ記載セシムル様可然御取計相煩度

第一、使用水量及有効落差ノ單位ハ每秒立方尺及尺トス

第二、理論馬力數ハ使用水量ト有効落差ノ積ニ「〇・一一一」ヲ乘シタルモノトス

第三、理論馬力及發電力ハ理論馬力「二〇」以下ノモノヲ除キ總テ小數位以下ノ四捨五入シタルモノトス

追テ百馬力未滿ノ水力使用ニシテ一般電燈供給(電力ヲモ併セ供給)ノ目的ヲ以テ出願シタルモノニ對シ許可セラレムトスル場合ニハ其ノ處分前豫メ當省ヘ御打合セ相成候様致度

○發電ノ原動力ノ用ニ供スル水力發生ノ爲ニスル河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ニ關スル件

(大正五年十二月十六日電土第九六號) 各地方長官宛土木局長 依命 通牒

發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲河川其ノ他公有水面ノ水ノ使用ヲ許可セムトスルトキハ當省大臣ノ認可ヲ受ケラレ度尙今後同様ノ出願ヲ受理セラレタルトキハ直ニ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ報告相成度

追テ本文同様ノ事件ニシテ從來受理セラレ未タ處分ノ運ニ至ラサルモノニ付テハ其ノ要領及受理ノ年月日ヲ又嘗テ許可セラレタルモノニシテ權利ノ現存スルモノニ付テハ左記ノ事項ヲ本年

内ニ到着スル様夫々御報告相成度

一、起業者

- 二、河川其ノ他公有水面ノ名稱並引入口及吐口ノ地名、
- 三、引用水量及引用期間
- 四、引用箇所ニ於ケル河川其ノ他公有水面ノ渴水時及平時ニ於ケル流量
- 五、落差
- 六、許可ノ年月日及許可ノ條件
- 七、工事竣功シタルモノハ其ノ竣功ノ時期工事中又未着手ノモノハ其ノ着手及竣功ノ時期
- 八、一般平面圖
- 九、堰堤其ノ他引入箇所ニ於ケル設備ノ構造圖
- 十、水路ノ横断面圖及縦断面圖

發電ノ原動力ノ用ニ供スル水ノ使用ニ關スル件

(大正七年九月廿八日發土第一三四號) 各地方官宛土木局長通牒

發電ノ原動力ニ供スル百馬力以上ノ水力發生ノ爲ニスル水ノ使用ニ關スル事件ハ當省ヘ稟伺ノ上處分大正五年十二月十六日發土第九五號ヲ以テ依命及通牒候次第モ有之候處右ノ内左記各項ノ一ニ該當スルモノノ外ハ自今稟伺ヲ要セス候條貴官限リ處分ノ上直ニ左ノ要項ヲ具シ報告相成度追テ本文ニ依ル報告後變更認可等ノ爲報告ノ内容ニ異動ヲ來タヌモノハ是亦其ノ處分ノ都度報告相成度

記

- 一、河川法施行河川ノ流域ニ係ハルモノ
- 二、河川法準用(河川水流水面ヲ)ノ流域ニ係ルモノニシテ堀鑿土砂二千坪以上若ハ理論馬力一千馬力以上ノモノ
- 三、前項以外ノ河川ニ依ルモノニシテ堀鑿土砂量五千坪以上若ハ理論馬力三千馬力以上ノモノ
- 四、貯水ヲ爲シ又ハ主トシテ落差ヲ得ル目的ヲ以テ堰堤ヲ築造スルモノ
- 五、甲河川ヨリ引水シ乙河川ニ放水スルモノニシテ治水上利害關係ノ著シキモノ
- 六、堰堤以外ニ於テ舟筏ノ通航木材ノ流下若ハ魚族ノ湖上ニ關シ特別ノ施設ヲ爲スモノ
- 七、灌溉其ノ他ノ水利事業ニ著シク障害ヲ及ボスノ虞アルモノ

水利使用出願事件取扱ニ關スル件

(大正七年九月二十日電監第五七六〇號各地方官宛) 遞信省電氣局長、内務省土木局長通牒

近時各種工業ノ顯著ナル發達ニ伴ヒ電氣動力ノ需用急激ニ増加シ敏速ニ之レカ供給ヲ充サシムルノ必要アルニ拘ラス在來水利使用ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ數年間徒ラニ之ヲ留保シテ事業經營ヲ爲サ、ルモノアリ且近來激増セル水利使用出願中ニハ往々單ニ權利ヲ獲ルノ目的ヲ以テ出願スルニ非サト疑ハルモノアルト共ニ權利讓渡ニ關スル弊害ヲモ生セムトスル傾向有之其ノ結果電氣動力供給ニ支障ヲ與ヘ眞摯ナル企業ノ發達ヲ阻害シ延イテハ一般經濟上ニモ影響スルトコ

口訥ナカラサル次第ニ付キ之方取締ノ勵行ヲ期スル爲メ爾今水利使用許可處分ニ際シテハ左記ニ依リ處理相成度候

- 一、會社成立期間、工事實施ノ認可申請期間（水利許可ノ日ノ翌日ヨリ起算ス但シ許可ノ際未タ電氣事業經營ノ出願ヲ爲サルモノニ付テハ事業經營ノ日ノ翌日ヨリ起算ス）電氣事業經營許可申請期間工事着手期間及工事落成期間ハ實際ノ事情ニ適合スル様ニ之ヲ定メ天災其ノ他不可抗力ニ依ル場合ノ外延期ヲ許サ、ルコト但シ自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ依リ期間内ニ工事實施認可ノ申請若ハ電氣事業經營許可ノ申請ヲ爲シ難キトキ又ハ工事ニ着手シ若ハ竣功シ難キトキハ期間經過前ニ延期ノ申請ヲ爲スコトヲ得セシムルモ其ノ期間ハ大体ニ於テ一年以内トスルコト
 - 二、水利使用許可ニヨリテ生スル權利義務ハ之ヲ他人ニ移シ又ハ貸付スルコトヲ許サ、ルコト但シ左ノ場合ハ特ニ之ヲ許スコトアルヘシ
 - イ、工事落成後又ハ工事落成前ニ於テ事業力相當ニ進行シ成功ノ見込アリト認ムルトキ
 - ロ、會社合併ニ因ルトキ
 - ハ、會社ノ組織變更ニ因ルトキ
- 前項但書ニ依リ權利移轉ヲ許可スル場合ニ於テ命令書ニ定ムル期間ハ之ヲ伸長セス
 追テ既許可ノ水利ニ就テハ權利義務ノ移轉又ハ工事實施認可申請期間若ハ期間ノ伸長ノ申請アル場合其ノ他適當ノ機會ニ於テ命令書ヲ變更シ本文ノ規定ニ據ラシムル様配慮アリタシ尙

既ニ認可ヲ經タルモノニシテ未タ命令書ヲ交付セサルモノニ付テハ本通牒ノ趣旨ニ依リ相當更正ノ上命令書交付相成度

○發電水利使用規則 (大正十年五月三十一日 縣令 第五十一號)

第一條 電氣發生ニ供スル目的ヲ以テ河川其ノ他公有水面ノ水ヲ使用セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 起業計畫說明書 (第一號樣式)
 - 二 起業ト公益事業トノ關係調查書 (第二號樣式)
 - 三 工事費概算書 (第三號樣式)
 - 四 事業計畫及其ノ収支概算書 (適宜調製スヘシ)
- 申請書ニハ前項ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ
- 一 會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本組合事業ニ在リテハ其ノ定款若ハ規約書ノ謄本
 - 二 既設會社ノ事業ニ在リテハ現ニ長野縣内ニ於テ電氣事業經營ノ許可又ハ水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ヲ除クノ外其ノ會社ノ登記簿ノ謄本及定款
 - 三 公共團體ノ事業ニ在リテハ起業ニ關スル決議書ノ謄本
- 第二條 本則ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ百馬力以上ノモノニ在リテハ三通其ノ他ハ二通ヲ作成

シ直接之ヲ提出スヘシ
第三條 第一條ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ左ノ區別ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ但シ公共團體ノ申請ニ係ル場合又ハ自家用電氣ニシテ其ノ發電水力十馬力未滿ノ場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラ

百馬力未滿	百圓
百馬力以上五百馬力未滿	五百圓
五百馬力以上千馬力未滿	千圓
千馬力以上五千馬力未滿	五千圓
五千馬力以上一萬馬力未滿	壹萬圓
一萬馬力以上五萬馬力未滿	參萬圓
五萬馬力以上	五萬圓

前項ノ保證金ハ國債證券、地方債證券、興業債券、勸業債券、貯蓄債券農工債券ヲ以テ納付スルコトヲ得

- 一 許可ヲ受ケタル工事竣功シタルトキ
- 二 不許可又ハ却下ノトキ
- 三 出願ヲ取消シタルトキ

四 許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ
虚偽ノ方法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ又ハ工事施行ニ關スル方法適當ナラスト認ムルトキハ本條ニ依ル保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ

第四條 (削除)

第五條 水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ起業計畫ニ從ヒ知事ノ指定スル期間内ニ左ノ申請又ハ届出ヲ爲スヘシ

- 一 電氣事業經營許可ノ申請
- 二 現ニ電氣事業ヲ經營スル者ニ在リテハ之レニ關スル起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項變更許可ノ申請
- 三 自家用電氣工作物施設ノ届出又ハ認可ノ申請
前項ノ申請又ハ届出ハ水利使用許可以前ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第三號ノ届出又ハ申請ヲ爲シタルトキハ同時ニ其ノ副本ヲ知事ニ提出スヘシ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ認可書及命令書ノ寫ヲ添付シ知事ニ届出ツヘシ
本條第一項ノ申請水利使用許可ノ一部ニ止ルトキハ其ノ事由並ニ殘部ニ對スル計畫ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ指定スル期間内ニ左ノ書類ヲ具シ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

一 實施計畫說明書 (第四號樣式)

二 工事費豫算書 (第五號樣式)

前項ノ認可ヲ受ケタル者ハ申請書類及認可書寫ヲ添ヘ遲滯無ク所轄工區主幹ニ届出ツヘシ
前項ノ規定ハ第七條第八條第三項第五項第六項並ニ第八項第十三條第十四條及第二十五條ノ場
合ニ之ヲ準用ス

第七條 水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ第一條又ハ第六條ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタル事
項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ知事ノ許可若ハ認可ヲ申請スヘシ

第八條 水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ指定スル期間内ニ工事ヲ施行スヘシ

工事施行ニ就テハ當該吏員ノ指揮監督ヲ受クヘシ

天災其ノ他不可抗力ニ因ル事故ノ爲期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期
間經過前ニ延期ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ天災其ノ他不可抗力ニ因ル事故ノ止ミタル日ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
自己ノ過失ニ歸セサル正當ノ事由ニ因リ期間内ニ工事竣功シ難キトキハ期間經過前ニ延期ヲ申
請スルコトヲ得但シ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

知事ノ命ニ依リ設計ヲ變更シタルトキハ更ニ期間ノ指定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ハ知事ノ命令ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算一ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
工事ニ着手シタルトキハ遲滯ナク其ノ月日ヲ知事ニ届出ツヘシ

第五條 及第六條ノ期間ニ付テハ本條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第九條 工事ニ基因シ風致ヲ毀損シ又ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ植樹

其ノ他適當ノ施設ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條 治水ノ障害ヲ來シ又ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ障害ヲ除

却セシメ又ハ之ヲ豫防スル爲必要ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 工事施行ノ爲必要ナル假締切、假道其ノ他ノ設備又ハ其ノ作業方法危害ヲ生スルノ虞

アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ危害ヲ豫防スル爲必要ナル施設又ハ措置ヲ爲

サシムルコトアルヘシ

第十二條 公益ノ爲必要ナル工事又ハ他人ニ於テ知事ノ許可ニ基キテ施行スル水利其ノ他ノ工事

ニ因リ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル事業ニ障害ヲ來シ若ハ變更ヲ生セシムルコトアルモ許可ヲ受

ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 工事竣功シタルトキハ届出テ検査ヲ受クヘシ

第十四條 通水ヲ開始セムトスルトキハ願出テ認可ヲ受クヘシ

第十五條 事業ノ爲河川、道路、橋梁、用悪水路其ノ他公共施設工作物ノ變更ヲ要スルトキハ許

可ヲ受ケタル者ハ當該行政廳又ハ其ノ管理者ノ許可若ハ承認ヲ受クヘシ

第十六條 事業ノ爲メ灌漑其ノ他ノ水利及漁業ニ支障ヲ來タシ又ハ其ノ虞アルトキハ許可ヲ受ケ

タル者ハ關係者ト協議シ水路ノ改築其ノ他適當ノ方法ヲ講スヘシ

前項ニ依リ工事ヲ爲サムトスルトキハ關係者ト協議ノ願末ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
第十七條 公益ノ爲必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シ引水ヲ停止シ若ハ引水量ヲ制限スルコトアルヘシ

第十八條 許可ヲ受ケタル者ハ夏冬ノ渇水時ニ於テハ毎月五回以上其ノ他ノ時期ニ於テハ毎月二回以上同一ノ期間ヲ置キ流量及水位ヲ測定シ翌年一月末日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第十九條 水路及附屬工作物並工事ニ伴ヒ施設シタル護岸其ノ他ノ工作物ヲ監査シ必要アリト認ムルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ相當ノ工事若ハ設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條 左ノ場合ニ於テハ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ工事ノ變更中止ヲ命シ又ハ許可條件ヲ變更若ハ増減シ又ハ現状恢復ヲ爲サシムルコトアルヘシ

一、公益上必要アリト認ムルトキ

二、法律命令又ハ本則及許可條件若ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違背シタルトキ

三、河川其ノ他公有水面ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要アリト認ムルトキ

四、詐偽ノ手段ヲ以テ許可ヲ受ケタルトキ若ハ許可ニ錯誤アリタルトキ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

一、第五條及第六條ニ依リ指定スル期間内ニ其ノ申請若ハ届出ヲナサ、ルトキ又ハ其ノ許可認可ヲ得サルトキ若ハ許可認可ヲ取消サレタルトキ又ハ失効ニ至リタルトキ

二、第八條ニ依リ指定スル期間内ニ工事ニ着手又ハ竣功セサルトキ

三、電氣事業ノ工事施行認可ヲ得サルトキ又ハ其ノ認可ヲ取消サレタルトキ

四、中途ニシテ工事ヲ廢止シタルトキ

五、會社解散シタルトキ

六、營業ノ廢止又ハ滿期ノトキ

七、許可年限滿了ノトキ

八、許可ヲ受ケタル者死亡シタルトキ

九、第六條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキ

十、創立總會ニ於テ本則又ハ許可條件ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決セサルトキ

第二十二條 許可ヲ取消サレ又ハ許可ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ許可指令書ハ速カニ之ヲ返納スヘシ其ノ之ヲ滅失シタル場合ニ於テハ理由ヲ具シ知事ノ承認ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ既設工作物アルトキハ許可ヲ受ケタル者ニ命シ其ノ全部若ハ一部ヲ除却シ原形ニ復セシムルコトアルヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ既設工作物ノ全部若ハ一部ヲ現形ノ儘

無償ニテ官有ト爲スコトアルヘシ

第二十三條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ本則及許可條件若ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ履行スルモ必要ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キヲ得サルトキハ知事ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

知事ニ於テ急迫ノ事情アリト認ムルトキハ第拾條、拾一條又ハ拾九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ命スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第二十四條 本則及許可條件若ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ依ル義務ノ爲要スル費用ハ總テ許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス
前條ノ場合ニ於テ之ニ要スル費用ハ第三條ノ保證金ヲ以テ之ニ充テ保證金ナキトキ又ハ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ追徴ス
本則及許可條件若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十五條 許可ニ因リテ生スル權利義務ハ之ヲ他人ニ移轉シ又ハ貸付スルコトヲ得ス但シ左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

- 一、工事竣功シタルトキ
 - 二、事業相當ニ進行シ成功ノ見込アリト認ムルトキ
 - 三、會社合併ニ因ルトキ
 - 四、會社ノ組織變更ニ因ルトキ
- 許可ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ相續者カ前項ノ權利義務ヲ繼承セムトスルトキハ戶籍抄本ヲ添ヘ遲滞ナク知事ニ願出許可ヲ受クヘシ
本條第一項但書又ハ第二項ニ依リ權利義務ノ移轉又ハ繼承ヲ許可スル場合ト雖モ本則ニ依リ既

ニ依リ既ニ指定シタル期間ハ之ヲ伸長セス
第二十六條 許可ヲ受ケタル會社發起人若ハ組合員ノ追加脱退ノ場合ニ於テハ遲滞ナク知事ニ願出許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケタル者ニ關シ重要ナル事項ノ發生シタルトキハ遲滞ナク知事ニ届出ツベシ

第二十七條 共同出願ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ連帶責任ヲ以テ本則及許可條件若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ因リテ生スル義務ヲ負擔スヘシ
第二十八條 本則ニ違反シ又ハ本則ニ依ル命令ニ遵ハサル者ハ五拾圓以内ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處スル法ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ罰ス

第二十九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十條 本則施行前ニ於テ水利使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三十一條 本則施行前ニ於テ提出シタル水利使用許可ノ申請ハ本則ニ依リ提出シタルモノト看做ス但シ本則ニ依リ提出ヲ要スル書類圖面若ハ保證金等ハ更ニ之ヲ補充セシムルコトアルヘシ

第三十二條 大正六年十一月縣令第三十七號發電水力使用規則ハ之ヲ廢止ス
(第一號様式)

第一 起業概要

- 一 起業者ノ氏名 府縣郡市町村大字番地「會社ナルトキハ會社名及氏名主タル事務所ノ設置地」
 - 二 目的 電燈電力ノ供給又ハ何々用動力
 - 三 供給(使用)區域 府縣郡市町村一圓又ハ府縣郡市町村所在何々工場若クハ府縣郡市町村何々鑛山
 - 四 河川(他ノ公有水面ヲ含ム) 名並取水口、放水口ノ位置
 - 河川名 幹川何川水系何川
 - 取水口 長野縣何郡市何町村大字何字何番地
 - 放水口 同縣何郡市何町村大字何字何番地
 - 五 使用水量 毎秒時何立方尺
 - 六 有効落差 何十何尺「曲尺ニテ示スコト」
 - 七 理論馬力數何馬力「使用水量有効落差ノ積ニ〇、一一一ヲ乘シタルモノトシ且二一十馬力以上ノモノニアリテハ小數以下ヲ四捨五入スルコト」
 - 八 發電力 何「キロワット」
 - 九 使用期間 許可ノ日ヨリ何十何年
 - 十 事業進行見込期間 (實際ノ必要ニ依リ記載スルコト)
- (一) 水利使用規則第五條ノ電氣ニ關スル事項申請又ハ届出期間 水利使用許可ノ日ヨリ何ヶ月又ハ大正何年何月何日迄

第二 水路工事

- (一) 同上第六條ノ工事施行認可申請期間電氣ニ關スル事項許可認可又ハ届出ノ日ヨリ何ヶ月又ハ大正何年何月何日迄
- 一 計畫說明大要
 - イ 水路總延長 何千何百何十間
 - ロ 水路勾配 何千分ノ一
 - ハ 引用方法ノ大要 何々
- 特ニ貯水池「又ハ河水ノ調整池」ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ計畫ノ大要ヲ記載スルコト
- 二 工作物ノ種類及構造ノ大要
 - (一) 種類、堰堤、取入口、隧道、開渠、何々
 - 「定規圖ニ示シタルモノ、種類ヲ記載スルコト」
 - (二) 堰堤 (第何號圖參照)
 - 位置 右岸長野縣何郡市町村大字何字何番地
 - 左岸同縣何郡市町村大字何字何番地
 - 何々「構造ノ大要ヲ說明シ特ニ流木路、魚道、舟筏路、土砂吐ノ構造ヲ附記スヘシ」
- (三) 取水口 (第何號圖參照)
 - 何々「構造ノ大要ヲ明記スルコト」

四 隧道 (第何號圖參照)

何々「構造ノ大要ヲ明記スルコト」

(五) 何々

何々「以下工作物ノ種類毎ニ其ノ構造ノ大要ヲ記載スルコト」

三 掘鑿土砂ノ數量及處理方法
數量 何千坪 「見積ノ根據ヲ(地質ニ應シ相當割増ヲ見込ミ其増率ヲ

處理方法

「水路豫測平面圖ニ示シタル土砂捨場一ヶ所毎ノ見積包容量ヲ記載シ且流何々出防止
ノ爲工作物ヲ設クルモノニアリテハ其構造ノ大要流出ノ虞ナシト認メタルモノハ其ノ根
據ヲ説明スルコト

四 切取盛土法面ノ保護方法

何々

五 水路開鑿ノ爲メ水路經過地域ニ於ケル山地崩壞防止ノ方法

何々

第三 使用河川ノ流量測定 (百馬力未満ノモノニ在リテハ省畧スルコトヲ得)

一 流域面積何方里何々 方里ヲ單位トシテ一方里ニ滿タサルモノハ
其ノ小數ヲ以テ表スルコト

二 流域ニ於ケル植林狀態 「裸地、耕地、林野ノ面積ノ歩合ヲ附記スルコト」

三 使用河川ノ流量及其ノ測定ノ方法、時期 「水量測定ハ前後地形同一ノ場所ヲ撰ミ異リタル數種ノ方法ニ依リ且渴水時ニ於テ數回
之ヲ行フコト」

別紙流量計算書 (第何號) 「測定ノ方法時期ハ可成計算書ニ記載スルコト」測定箇所ノ
流量 何 個

四 使用水量決定ノ理由

何々「使用河川ノ流量ト對比シ決定シタル理由及渴水量ヲ超過シテ使用セムトスル
キハ其事由ヲ附記シ尙灌溉其ノ他既許可ノ水利事業並舟筏流水等ニ關係ヲ有スルモノ
ニ在リテハ之等ノ關係ヲ附記スルコト但第二號様式起業ト公益事業トノ關係調參照」

五 發電所及取水口附近ニ於ケル最高水位、平水位、最低水位

六 使用河川ノ勾配及河床

何々「取入口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水口ノ下流一千間ノ地點ニ亘ル使用河川本流ノ
勾配並ニ其ノ河床ノ狀態ヲ記載スルコト」

起業計畫說明書ニハ左ノ圖表ヲ添付スヘシ

一 供給(使用)區域圖

一 供給區域又ハ鐵道若ハ軌道經過地ヲ陸地測量部出版五万分ノ一地形圖ニ記入スルコト」
二 水路一覽圖

「全上圖面又ハ之ト同等ノ圖面ニ堰堤、取水口、隧道、開渠、發電所、放水口等ノ位置並ニ流域境界線ヲ記載シ尙附近ニ於テ灌溉其ノ他既許可ノ水利事業アルトキハ其位置ヲ記載シ欄外ニ其ノ事業者名ヲ記載スルコト特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其位置ヲ記入スルコト」

三 水路豫測平面圖

「縮尺一万分ノ一以上トシ地形ノ概略ヲ表ハシ地名ヲ詳記シ堰堤、取水口、隧道、開渠、暗渠、水槽、發電所、放水口、其ノ他主要工作物ノ位置並掘鑿土砂捨場ノ位置及高程基準標ノ位置並取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ範圍ヲ記入スルコト特ニ道路、橋梁、用惡水路其ノ他公共ノ既設工作物ノ位置ヲ表スコト」

四 水路豫測縱斷面圖

「縮尺横六千分ノ一以上縱二百分ノ一以上トシ堰堤、取水口、隧道、開渠、水槽、發電所、放水口其他主要工作物ノ位置並水路ヲ横斷スル道路橋梁用惡水路其ノ他公共ノ既設工作物ノ位置及取水口及發電所附近ニ於ケル堰堤築造前及築造後ノ最高水位平水位、最低水位ヲ記入スルコト但高低ノ基準ハ可成陸地測量部ノ水準線ニ準據シ尙必ス取水口及放水口附近ニ高低基準標ヲ置キ其ノ高ヲ附記スルコト」

五 河床縱斷面圖

「縮尺横六千分ノ一縱二百分ノ一以上トシ取水口堰堤ノ高及其ノ上流（取水口堰堤ノ爲メ洪水時ニ於ケル水面ノ隆起カ影響スル範圍内）ニ於ケル使用河川本流ノ河床ノ狀態並道路橋梁用惡水路其ノ他公私ノ既設工作物ノ位置及高ヲ表ハシ且最高水位、平水位、最低水位及取水口、堰堤ノ爲洪水時ニ於テ隆起スル水面ヲ記入スルコト」

六 堰堤及水路ノ定規圖

「縮尺ハ適宜トシ形狀材質及構造ノ大要ヲ示スコト」

七 水路ノ流量計算書

「水路ノ定規圖毎ニ調製シ符號ヲ附シ對照ニ便ナラシムルコト」

八 使用河川ノ流量計算書

「説明書第三號ノ三參照」

九 使用河川ノ流量測定個所ノ橫斷面圖

「縮尺ハ適宜トシ測定ノ個所毎ニ調製シ且各斷面ハ之ヲ數個ニ區劃シ其ノ區毎ノ幅深濕潤周界及最高水位最低水位平水位ヲ詳記シ流量計算書ト對照ニ便ナラシムルコト」

十 雨量觀測表

「附近觀測所ノ調査ニシテ五年以上ニ亘ル月表並ニ二年以上ノ日表」

（第二號樣式）

起業ト治水其ノ他公益事業トノ關係調書(百馬力未滿ノモノ
ニ在リテハ省畧スルコトヲ得)

一 取水口堰堤ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ基因スル影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

洪水時ニ於ケル水面ノ隆起堰堤ニ於テ何尺

「洪水量、引用水量、越水量其ノ他影響ノ程度ヲ決定シタル根據(算式トモ)ヲ附記スルコト」

蓄水ノ影響約何間

何々縣道ニ氾濫スル虞アルヲ以テ何々ス(其ノ工法ハ何々又ハ何々橋ヲ高△其ノ工法何々又ハ何々地内堤防ヲ越水スルノ虞アルヲ以テ上置工事ヲ施行ス其ノ工法何々依テ對岸ニ影響ヲ及ホスヲ以テ之ニ對シテハ何々ス其ノ工法何々等

二 灌溉其ノ他既許可ノ水利事業ニ及ホス影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

取水口放水口間及其ノ上下附近ニ於テ本起業ノ爲影響スルモノナシ又ハ何々堰、灌溉反別何町歩ノ灌溉ノ爲渇水時期何立方尺ノ分水ヲ爲ス

三 舟筏ノ通航流木及漁業ニ及ホス影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要
舟筏ノ通航或ハ流木ノ慣行ナシ若ハ漁業ノ利ナシ又ハ堰堤ニ舟筏路若ハ魚道ヲ設クルヲ以テ

之ニ對シ影響ヲ及ホスコトナシ(第何號堰堤圖參照)等

四 名勝舊蹟等ニ及ホス影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

本事業ノ爲名勝舊蹟等ニ影響ヲ及ホスコトナシ又ハ發電所附近ニ何々アリ其ノ風致ヲ損スルノ虞アルヲ以テ附近ニ植樹又ハ何々張芝ヲ爲ス等

五 河川道路橋梁用惡水路其ノ他公共ノ既設工作物ニ影響ヲ及ホス程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

本事業ノ爲既設工作物ニ影響ヲ及ホスコトナシ又ハ何々道路若ハ何々用惡水路ノ附換ヲ要ス其ノ方法(第何號水路豫測平面圖)ノ通ニシテ其ノ工法ハ何々等

六 貯水池設置ニ因リ流出量ニ増減ヲ來スノ結果使用河川ノ下流ニ於ケル用惡水路舟筏ノ通航及流木ニ及ホス影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

七 放水口ヲ他ノ河川ニ設クル場合關係河川ノ治水及水利上ニ及ホス影響ノ程度竝ニ之ニ關スル施設ノ大要

(第三號様式) 工事費概算書

水 槽 費	鐵 管 費	放 水 路 費	水 車 費	諸 建 物 費	補 償 費	掘 鑿 土 砂 處 理 費	山 地 崩 壞 防 止 費	道 路 橋 梁 附 換 費

項 目	數 量	單 價	金 額	摘 要
水 路 工 事 費				
創 立 費				
用 地 費				
堰 堤 費				
取 水 口 費				
開 渠 費				
隧 道 費				
餘 水 吐 、 土 砂 吐 其 他 水 路 附 屬 工 事 費				

何々々

二 各種工事設計ノ要領

「水路實測圖及構造圖ニ示シタルモノ、要領ヲ順次説明スルコト但シ算式ヲ以テ計算シタルモノハ其ノ計算書ヲ添付スルコト」

イ 堰堤(第何號圖參照)

「地質ヲ説明シ試驗ヲ行ヒタルモノハ其ノ成績表ヲ添付スルコト」

ロ 取水口(第何號圖參照)

何々々

三 工事施行ノ順序

何々々

四 作業方法

何々々

五 掘鑿土砂處理方法

「土坪計算表及土砂捨場圖ヲ添付シ各個所ノ面積並ニ土砂包容量ノ計算ヲ示スコト」

何々々

六 水路開鑿ノ爲水路經過地域ニ於ケル山地崩壞防止ノ方法

何々々

七 洪水時ニ於ケル水面隆起及嵩水ノ影響

何々(第何號圖參照)

八 量水設備

「取水口附近ニ於テ使用水量ノ觀測ヲ爲スヘキ設備ヲ定メ其ノ構造ノ要領ヲ説明スル」

何々々

九 貯水池河水ノ調整池ノ貯水容量

「立方尺トシ其ノ計算書ヲ添付スルコト」

及其ノ使用方法

何々々

實施計畫説明書ニハ左ノ圖面ヲ添付スヘシ

一 水路實測圖

イ 平面圖

「縮尺六千分ノ一以上トシテ水路ノ中心線測點番號水路及附帶工作物ノ位置ヲ記入シ附近ノ地形ヲ明ナラシムルコト」

ロ 縱斷面圖

「縮尺横六千分ノ一以上縦二百分ノ一以上トシ測點番號基準線(高ハ可成陸地測量部水準ニ準據スルコト)距離遞加距離地盤高、切取盛土ノ高水路底面ノ高、計畫水位(水面勾配ヲ

記入スルコト)並ニ實測平面圖ニ示シタル水路及附帶工作物ノ位置等ヲ記入シ尙取水口及放水口ニハ最高水位平水位最低水位ヲ記入スルコト

ハ 横断面圖

「縮尺二百分ノ一以上トシ切取盛土面坪計畫水位法勾配法面保護工事ヲ記入シ各断面間ノ距離ハ土坪計算ニ必要ナル程度トナスコト」

二 構造圖

イ 堰堤(流木路魚道土砂吐等ヲ含ム)取水口(制水門ヲ含ム)沈砂池、土砂吐、餘水路制水門、隧道、開渠、木樋、水路管、水路橋、水槽、放水路、水壓管、吸出管、水車、發電所並貯水池河水ノ調整地等ノ構造圖

「縮尺ハ適宜トシ構造ノ適合ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入スルコト」

ロ 水路開設ニ伴ヒ施設スヘキ各種工作物ノ構造圖
「縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入シ尙水路ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖ヲ添付スルコト」掘鑿土砂捨場附屬工作物ノ構造ハ特ニ之ヲ記載スルコト

三八 取水口堰堤(其ノ他ノ工作物ヲ含ム)ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起及嵩水ノ影響ヲ示シタル圖面

(第五號様式) 工事費豫算書

工事費概算書中水路工事費ニ關スル各費目ヲ細別シ工事ノ種類、長、數量、單價、金額及工法ノ摘要ヲ示スコト但特種ノモノニ付テハ別ニ設計書ヲ添付スルコト

(各様式ニ對スル備考)

一 「」内ノ事項ハ起業者ニ於テ必ス遵守スヘキ事項ヲ示ス

二 説明書記載事項ニシテ添付圖表參照ヲ便宜トスルモノハ必ス(第何號圖表參照)ト附記スルコト

三 圖面ニハ必ス方位縮尺凡例並番號及起業者ノ氏名ヲ記載シ(折疊ミタルモノハ上面ニモ番號及起業者ノ氏名ヲ記載スルコト)説明書ト對照ニ便ナラシムル外尙其ノ目錄ヲ調製シテ申請書末尾ニ添付スルコト

四 計算書其ノ他諸表モ前號ニ準スルコト

五 許可又ハ認可事項ノ變更申請書ニハ既許可事項ヲ右傍ニ朱書スルコト

發電水力使用願取扱方ノ件 (大正八年八月五日土甲發第五六號) 各郡長宛 內務部長 通牒
水力電氣發生ノ爲河水使用ノ出願ヲ爲シタルモノニ對シ關係町村ノ意見ヲ徵スル爲當廳ヨリ照會シタル場合ニハ左記ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

記

一、本文ノ照會ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク關係町村(水利組合ヲ含ム以下同シ)

ニ對シ左記事項ニ關スル意見ヲ諮問スルコト但シ水利組合ニ在リテハ(ロ)及(ハ)ヲ省ク

- (イ) 灌溉其ノ他水利事業ニ及ホス影響
- (ロ) 舟筏ノ通航、流水及漁業ニ及ホス影響
- (ハ) 名勝舊蹟等ニ及ホス影響

二、前項諮問ノ際ハ一定ノ期間(諮問ノトキヨリ最長三十日ヲ限度トシ事件ノ大小、町村ノ距離其ノ他必要ト認ムル事情アレハ之ヲ斟酌シ)ヲ指示シ其ノ期間内ニ答申ヲ爲サシムルコト、シ且指示期間内ニ答申ヲ爲サ、ルトキハ意見ヲキモノトシテ處置スル旨ヲ附記シ關係圖書類ヲ添ヘテ諮問スルコト

三、數町村ニ關係ヲ有スル場合ハ關係圖書添付ノ關係上其ノ町村ノ數ニ應シ勢ヒ意見書取纏ノ期間ヲ延引スル場合アルヘキモ可成速カニ諮問及答申ヲ得ルノ手續ヲ爲スコト

四、第二項ノ意見纏リタルトキハ郡長ハ更ニ其ノ意見ヲ付シ關係圖書類ト共ニ速カニ當廳ニ送付スルコト但シ第二項後段ニ依リ答申ヲ爲サ、ル町村ニ付テハ其ノ旨ヲ記載シ郡長ノ意見ノミ添付スルコト

五、關係町村ト稱スルハ出願シタル水路起終點ノ間ニ地籍ヲ有スル當該河川沿岸ノ町村及出願シタル水路ノ區間ニ於テ取水口ヲ有スル既設用水路ニ關係アルモノ其ノ他郡長ニ於テ特ニ必要ト認メタル町村トス

六、第二項ノ諮問ヲ發シタルトキハ其ノ町村名及答申期間ヲ速カニ當廳ニ通報スルコト

七、從來發電水力使用願ニ對シ本件ノ意見ヲ徵スヘク照會シ置キタルモノニシテ未タ意見書ノ提出ナキ向ハ此ノ際更メテ第二項ニ準シ意見答申ノ期間ヲ指定シ其ノ狀況ハ第六項ニ準シ報告スルコト

◎發電水利使用出願人ト地元ト條件協定ニ關スル件

(大正十年八月二十七日土甲發第七二號 內務部長通牒)

發電ノ爲河川水利ノ使用ヲ出願スル者アリタル場合ニ當リ地元ノ意見ヲ徵スル手續ニ關シテハ大正八年八月五日土甲發第五六號ヲ以テ通牒ノ次第モ有之候處尙左記ノ廉ハ特ニ此ノ際町村へ御通達相成度

依命此段及通牒候也

- 一、地元關係町村カ水力使用出願(變更出願モ含ム)ニ對シ意見書ヲ提出スル前後ニ於テ關係願人又ハ會社ト町村若ハ町村内ノ部落トノ間ニ或ル條件ヲ協定シテ然ル後意見書ヲ提出シ若ハ提出後之等ノ協定ヲナス向アルヤニ聞キ及候處右ハ當該地方ノ公益上重要ノ關係ヲ有スル次第ニ付協定前ニ於テ豫メ其ノ案件ヲ具シ當廳へ申出承認ヲ經タル後之ヲ締結スルコトニ取扱フコト

◎砂防

砂防法 (明治三十年三月三十日法律第二十九號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施
設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限ス
ヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外
ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行
爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止
マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管
内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラ
サル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲スコトヲ得前
項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ
其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ
得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲ
爲サシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政
廳ハ其ノ行爲ヲ爲シタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲ爲サシムルコト
ヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他
ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章

砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ
權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ
要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得
前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限りニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲ爲シ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以内ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事ノ作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ作業其他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セ

シメタル方爲ニ要シタル費用ハ此ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ区域内ノ下級公共團體ニ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ就キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ区域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下附シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲサシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用者ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ

得

得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下附スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若クハ其土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下附スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下附スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ預防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘ

シ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲竝砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限竝其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條及第二十條ニ規定シタル事項竝此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セヌ若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スル見込ナキトキ又ハ其ノ履行方法宜キヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充

分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス
第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職

務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付争アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下附スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六ヶ月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附 則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

砂防法施行規程

(明治三十年十月二十六日 勅令三三八二號)

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ砂防法

第六條第二項ニ依リ內務大臣ニ於テ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル

第五條 (土木監督署廢止ニ由リ消滅)

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長市參事會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理者ニ於テ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルト

キハ少クトモ五日目前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日目前ニ其場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其指定ノ爲メ其ノ効力ヲ失ハス
前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖モ内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

○砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件

(明治三十二年八月十五日 勅令第三七四號)

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ稅務監督局長ニ申請スヘシ

○砂防ニ關スル行政監督ノ件 (明治三十一年一月三十一日 勅令第一五五號)

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡市町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但シ利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限りニアラス

- 一 砂防法第三條ニ依ル準用
- 二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲
- 三 砂防法第七條及八條ニ依ル府縣知事ノ處分
- 四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計画及其工費豫算
- 五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負担方法

- 六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
- 七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

○明治三十一年勅令第十五號第二條但書ニ依リ認可

ヲ要セサルモノニ關スル件 (大正八年十月一日 內務省令第一八號)

- 第一條 左ニ掲クル事項ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セス
 - 一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計畫ノ目的ヲ達シ得ヘキモノ並之ニ伴フ工費豫算ノ變更
 - 二 砂防法第七條ニ依ル砂防設備ノ維持又ハ輕易修繕工事ニ關スル處分
 - 三 砂防法第十五條ニ依ル費用ノ負担方法ニシテ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノ

附 則

明治三十二年四月內務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

砂防法又ハ河川法ニ依リ地租條例ノ開墾ニ該當スル

場合取扱方ノ件 (明治四十一年六月二十六日藏甲第二二〇號各地方長官宛土木局長通牒)

砂防法又ハ河川法ニ依リ一定ノ行爲ヲ許可セルモノニシテ地租條例ノ開墾ニ該當スル場合ノ取扱

方ニ關シ別紙寫ノ通り大藏次官ヨリ照會有之候條右ノ趣旨ニ依リ御取扱相成候方可然依命此段及通牒候也

大藏次官照會

砂防法又ハ河川法ニ依リ一定ノ行爲ヲ許可セルモノト雖モ該行爲カ地租條例ノ開墾ニ該當スルトキハ更ニ地租條例ニ依リ稅務署ニ開墾ノ届出ヲ要スヘキ義ニ候ヘ共斯クテハ官民ノ不便ヲ來ス夫以テ稅務署ニ於テハ地方廳ノ許可通知ニ依リ取扱フコトニ先般手續ヲ改メ候處地方廳ニ於テハ一筆中部中ノ幾部分ニ付開墾ノ許可ヲ與フル場合ニ於テハ取扱上支障有之元來地租條例ニ於テハ一筆中部分開墾ヲ認メサルヲ以テ右ノ場合ニ於テハ稅務署ハ己ムヲ得ス一部分ノ開墾ト雖モ全筆ノ開墾トシテ取扱ハサルヲ得サル次第ニ有之候ヘ共右ハ實際ニ副ハサル整理ニシテ相當ニ無之就テハ地方廳ニ於テ一筆中ノ部分開墾ノ申請ヲ受理スルトキハ其際分筆ノ手續ヲ爲サシメタル上許可スルコトニ取扱フコトニ致度候間其旨貴省ヨリ御訓令相成候様致度此段及照會候也

○砂防指定地取締規則 (明治三十七年十月廿九日 縣令第三十四號)

砂防法第四條ニ依リ砂防指定地取締規則左ノ通相定ム

明治三十一年八月縣令第四十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

砂防指定地取締規則

- 第一條 砂防法ニ依レル砂防工事施行箇所ニ於テハ一切ノ作業ヲ禁止ス
- 第二條 砂防法第二條ニ依レル砂防設備ヲ要スル指定地中山林原野ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス

一 開墾

二 切芝及土石採掘但指定地ニ於テ施行スル砂防工事ノ爲メ必要ノモノヲ除ク

三 牛馬ノ放牧

四 植物根株ノ採掘

五 竹木ノ皆伐

六 落葉ノ採取

七 火ノ入

前項ノ行爲ト雖モ左ノ各號ノ一二該當スルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一 土地ノ勾配又ハ地質等ニ依リ崩壊ノ虞ナシト認ムルモノ

二 土地ノ崩壊ヲ防クニ足ルト認メラル、設備アルモノ又ハ設備ヲ爲スコトノ條件ヲ附スルモ

中ノ但其條件ヲ履行シ得ヘキ資力アリト認ムルモノニ限ル

三 公益ノ爲メ必要ト認ムルモノ

第三條 砂防法第二條ニ依リ砂防設備ヲ要スル指定地ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスル者ハ當廳ノ

許可ヲ受クヘシ

一 地目變換

二 土地ノ掘鑿其他土地ノ形狀ノ變更

三 山林原野以外ニ於ケル切芝及土石採掘

四 山林原野ニ於ケル竹木ノ伐採枝拂柴草刈取

第四條 砂防法第二條ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限スヘキ指定地ニ於テ左

ノ行爲ヲ爲サントスル者ハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 開墾

二 竹木ノ伐採

三 切芝及土石採掘

四 植物根株ノ採掘

五 牛馬ノ放牧

六 火ノ入

第五條 前各條ニ違背シタル者ハ科料又ハ拘留ニ處ス

◎國有財産

○地所名稱區別

(明治七年十一月七日
大政官布告第一二〇號)

官有地

第一種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス「地方稅」ヲ賦セサルヲ法トス

一 皇宮地

皇居離宮等ヲ云

一、神地

伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課セス「地方稅」ヲ賦セサルヲ法トス「尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ

發セス」唯帳簿ニ記入ス
但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
一、皇族賜邸

一、官用地 「官院」省「使寮司」府「藩」縣本支廳裁判所警視廳陸海軍本「分」營其ノ他
政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス「地方稅」ヲ賦セサルヲ法トス

「但シ人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ」

一、山岳、丘陵、林藪、原野、河海、湖沼、池澤、溝渠、堤塘、道路、田畑、屋敷等其ノ他民有地ニアラサルモノ

一、鐵道線路敷地

一、電信架線柱敷地

一、燈明台敷地

一、各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一、人民所有ノ權利ヲ失セシ土地

一、民有地ニアラサル堂宇敷地及墳墓地

一、行刑場

第四種 「地券ヲ發セス」地租ヲ課セス「地方稅」ヲ賦セサルヲ法トス
一、寺院、大中小學校、説教場、病院、貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 「地券ヲ發シ」地租ヲ課シ「地方稅」ヲ賦スルヲ法トス

一、人民各自所有ノ確證アル耕地、宅地、山林等ヲ云
但シ此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰地「開墾」等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官

ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一、人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校、病院、郷倉、牧場、秣場、社寺等官有地

ニアラサル土地ヲ云但シ此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ潰地「或ハ開墾」等ノ

如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 「地券ヲ發シテ地租地方稅」ヲ賦セサルヲ法トス

一、官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云

一、民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地

一、公衆ノ用ニ供スル道路但シ其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

國有財產法 (大正十年四月七日) 法律第四十三號

第一條 本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂

第二條 國有財產ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ
- 第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ
- 第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 雜種財産ハ左ニ掲ケル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得
- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
 - 二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ
 - 三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財用ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ
- 第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

- 第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
- 第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ
- 第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ
- 第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
- 二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以下ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年
- 三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲

必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用

ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ國

有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ國有財產現在額總計算書ニハ各

省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第六十一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財產ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ

國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ抵觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ効

力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、

第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ効力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報

告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定ア

ル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ

定ヲ爲スコトヲ得

○國有財產法施行令 (大正十一年一月二十八日勅令 第十五號)

第一章 總 則

第一條 左ニ掲グル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠

二 不動產又ハ前號ニ掲グル動產ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通

知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除ク外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ
前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ
規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國
鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金又ハ在外國帝國專管居留地特別會計ニ屬スルモノニ付
之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルト
キ

二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタ
ルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産
ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ク又ハ自己ノ所

有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ
ハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外費用負擔ノ義務ヲ
負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ
廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與
スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相
當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之
ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シ
タル場合ヲ除ク外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ
基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ
評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス
第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス
第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ

當該官廳ハ其ノ用途並之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

- 一 土地又ハ水面ノ所在及面積
- 二 事業ノ目的
- 三 事業施行ノ方法及順序
- 四 成功豫定期間
- 五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ
天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ

佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ
第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ
前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳
第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省畧スルコトヲ得

第二十種 目
二 所在又ハ所屬

三 數
四 價
五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項
第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之

ヲ定ムヘシ

- 一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
- 二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

- 三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格
- 四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上秘密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例

附則
第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ湮壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百十六號達

明治八年第四百十八號達

明治九年第四百十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ湮壘外岸接近ノ官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四百十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ

外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入交換又ハ

收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外

第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月

三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

○國有財産法施行規則

(大正十一年二月八日 大藏省令第十四號)

第一條 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病

院、監獄、學校、官舎、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射撃場、飛行場、牧場、農場、試験場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エザル場合及相接觸スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財産ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於タル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産増減報告書ハ第二號及第三號様式ニ據ル

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(様式ハ省署)

内務省所管國有財産取扱規程

(大正十一年六月十九日 内務省訓令第一〇號)

第一條 内務省所管ノ國有財産ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ取扱ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ内務大臣官房會計課長土木出張所長千住機械工場監督、土木試験所長衛生試験所長、神宮大宮司造神宮副使明治神宮造營局長警察講習所長武藏野學院長營養研究所長警視總監北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條 部局長ハ其ノ部局所管ノ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スヘシ

第四條 部局長他省ヨリ國有財産ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財産ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ

部局長部局相互間ニ於テ國有財産ノ所管換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及認書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第四條ノ二 管理換ニ關スル事項ニシテ左ニ掲ケルモノハ部局長當該大林區署長及稅務監督局長ト協議ノ上之ヲ行フヘシ

一 農商務省所管營林財産ヲ公用財産ト爲スコト

一 公用財産若ハ神社ノ用ニ供シタル公用財産ヲ農商務省所管營林財産ト爲スコト

第五條 部局長土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキ

ハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作製シタル調書ヲ添付スヘシ
第五條ノ二 公共用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ爲サムトスル
トキハ部局長限リ之ヲ行フヘシ

第六條 部局長土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ内務大臣ニ報告ス
ヘシ但シ公共用財産ト爲スモノニ付テハ報告ヲ要セス

第七條 部局長公用財産「神社ノ用ニ供シタルモノ及國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ不
動産及動産ノ從物ヲ除ク以下同シ」ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ雜種財産
ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルキ公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其
ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ備アルモノハ其ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添付シ内務大臣ニ稟
請スヘシ但シ公用財産タル土地ノ用途ノ變更ニシテ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相
接續スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ部局
長限リ之ヲ行フヘシ

公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ内務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具
申スヘシ

第七條ノ二 國有財産法施行令第一條第二項第二號ノ從物ニシテ其ノ主物ト分離シ從物タル關係
ヲ廢止セントスル場合ニ於ケル公用財産ノ用途廢止ハ部局長之ヲ行フヘシ

第八條 部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添付シ内務大臣ニ

稟請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書
ヲ添付スヘシ

第九條 部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、
隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書、（土地又ハ建物
ニ在リテハ圖面共）ヲ添付シ内務大臣ニ稟請スヘシ但シ左ニ掲ケタル事項ハ部局長限リ之ヲ行
フヘシ

- 一、公共用財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシムルコト
- 二、公用財産ノ一時使用ヲ爲サシムルコト

第十條 公共用財産ノ用途ノ廢止ハ部局長之ヲ行フヘシ

第十一條 公共用又ハ神社ノ用ニ供シタル土地ノ用途廢止ノ場合ニ於テ國有財産法施行令第二條

第一項ノ規定ニ依ル手續ハ部局長當該稅務監督局長ニ對シテ之ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ引續キキヲ爲ササルコトニ協議調ヒタル土地ノ處分ハ部局長之ヲ行フヘシ

第十二條 部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調成シ之ヲ保
存スヘシ

第十三條 國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ
添付シ内務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第十四條 部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區別ニ依リ調製スヘシ
一 土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二 建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條 國有財産法施行規則第一號様式備考二ノ但書ニ依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

一 北海道廳ニアリテハ年二回(第一回自四月至九月期間) (第二回自九月至三月期間)

二 北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回(自四月至三月期間)

計算證明規程第七十一條ニ依リ毎年度最終ノ國有財産増減計算書ニ添付スヘキ明細書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第十八條 部局長ハ第一號様式ニ依リ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書二通ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第十九條 部局長ハ第二號様式ニ依リ每五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在ニ依ル國有財

▲産現在額報告書二通ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十條 本規定ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十一條 國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十二條 左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
訓令 官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治二十三年十月内務省訓令第三十七號官有地賣貸評價委員設定ノ件
明治二十六年十一月内務省訓令第六九四號官有土地水面ノ公私有區別

明治二十七年四月内務省訓令第二三八號官有土地水面並土石竹木等賣買貸借交換讓與ノ際契約書省略ノ件
明治三十三年五月内務省訓令第五二五號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ又ハ土地收用法ニ依リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十三年六月内務省訓令第二十號明治三十八年四月内務省訓令第十四號直轄河川改修工事ノタメ官有地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十六年十月内務省訓令第六二五號耕地整理法第十條ニ依リ國有地ヲ參加土地所有者ニ交付シ

又代地ヲ國有ニ編入ノ件
明治三十六年十月内務省訓第六六二號御料地ヲ賣渡シタル場合ニ於ケル地種組替ノ件
明治三十九年五月内務省訓第三四四號官有土地水面並土石竹木等交換讓與ニシテ無條件ノモノハ
請書ヲ徵セサルモ妨ナキ件

明治四十年十二月内務省訓第一一三〇號大藏省所管ノ固定資本ニ屬スル土地處分ノ場合地種組替
ニ關スル件明治四十二年十二月内務省訓第六二〇號明治四十三年三月内務省訓第八〇號地種目組
替取扱ニ關スル件

大正元年十一月内務省訓令第四號官有財産並其ノ増減異動報告方ノ件
大正二年一月内務省訓令第一號號國有土地水面等ニ關スル委任事項

大正二年四月内務省訓第一九九號國有土地水面ニシテ各地ニ散在スル小畝歩ノモノ賣却ノ件

明治九年五月内務省達乙第五十九號地所拂下代價算出方

明治二十三年十月内務省書記官通牒地甲第二三號官有地賣貸評價委員選定方

明治二十五年一月營甲第一一〇號官有地積算法ノ件

明治二十五年十二月内務書記官通牒地甲第二七九號官有財産管理規則第十三條ニ公共組合ヲモ含
ムノ件

明治二十七年十二月甲第三九七號風潮除又ハ風致等ノ爲樹木獻植ノ件

明治三十年三月土監甲第二二〇號通牒明治三十八年四月秘甲第一七號通牒直轄河川改修工事ノ

爲御料地中潰地ヲ要スル場合取扱方ノ件

明治三十年十月庶甲第一九五號各官廳ノ所有ニ供スル爲府縣郡市町村ヨリ土地ヲ寄附セントスル
トキハ各其ノ議會ノ議決書及監督行政廳ノ認可若ハ許可書ヲ添屬シテ出願セシムル事

明治三十一年三月庶務局通牒地甲第四〇號官有地讓與ノ場合ニ於テモ評價セシムヘキ件
明治三十一年九月庶甲第二一二號森林法第二條ニ該當スル官有地ヲ保安林ニ編入ヲ要スル場合ニ

於ケル手續及人民ノ獻植ヲ許可セラレタル場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十一年十二月庶甲第二六號官有地森林原野收入金徵收規程中改正ニ就キ產物年期賣拂代金
徵收方ノ件明治三十三年五月庶甲第一三三號公用土地買上規則ニ依リ買上ゲ又ハ土地収用法ニ依

リ收用シタル土地處分等ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

明治三十四年六月土甲第二五號河川改修工事ノタメ買収若ハ収用シタル土地貸付方
明治三十七年四月藏甲第一八號土地臺帳規則施行細則改正ノ結果土地所有權登記ニ關スル件

明治三十七年七月藏甲第三一號無番號ナル官有地登記ノ件
明治三十七年十一月理甲第一〇號直接公用ヲ廢シタル官有地ヲ戰時經營ノ一事業トシ小學校紀念
殖林ニ充ツルノ目的ヲ以テ拂下ノ件

明治三十八年九月青甲第四一號市町村又ハ公立小學校ノ基本財産造成ノ爲官有地特別處分ノ件

明治三十九年四月理甲第六號町村有ノ戰時紀念林ニ要スル官有地特別處分ノ件
 明治三十九年四月理甲第三八號小學校生徒樹栽地ニ供スル官有地特別處分ノ件
 明治三十九年六月藏甲第三〇九號土地臺帳規則施行細則改正ニ付注意方ノ件
 明治三十九年八月藏甲第二五二號大藏省所管ノ官有地ヲ同省限リ使用許否ノ件
 明治三十九年九月地理課通牒理甲第二二號官有土地水面賣貸讓與交換ノ際評價書ニ掲記スヘキ事項ノ件
 明治四十年八月農甲第二七號國有林野法第三條一項ニ依リ組換ヲ爲ス場合ノ協議手續ニ關スル件
 明治四十年十月香甲第四六號官有地特別處分規則第三條適用ノ件
 明治四十一年五月理甲第四號社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件
 明治四十二年四月理甲第三號民有神社地及寺院敷地ノ土地許否ノ件
 明治四十二年六月理甲第九號官有地ノ賣却、貸付ノ場合ニ於ケル入札又ハ契約保證金ニ關スル件
 明治四十二年七月富乙第六五號私有地ノ土砂ヲ無願採取ノ件
 明治四十二年十二月藏甲第二三六號民有地ノ國有トナリ又國有地ノ民有トナリタル場合所轄稅務署ヘ通知ノ件
 明治四十二年十二月閣甲第五四號地種目組替取扱ニ關スル件
 明治四十二年十二月會計課通牒會甲第二〇〇號量水標ハ官有財產トシテ取扱ハサル件
 大正元年十二月理三〇〇號國有地ヲ民有地ト爲ス場合ノ取扱方ニ關スル件

大正二年一月元理五三二五號ノ內國有土地水面及木竹土石砂利其ノ他ノ物ニ關スル委任事項改正ニ關スル件

大正二年二月理第六二號鐵道院ニ於ケル土地取扱官吏
 大正三年二月發理第一號御大禮紀念事業經營ノ爲官有地拂下ノ場合ニ於テ官有地特別處分規則第一條一號適用ニ關スル件
 大正五年七月閣理第七號鐵道用地ニ關シ官有地ノ一部管理替ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件
 大正五年八月會計課通牒發會第一三九號船舶取扱方
 大正五年十月秋理第六號官有地貸付料徴収ニ關スル件
 大正六年十二月理第三四七號未登記國有地公共團體ニ拂下箇所登記ニ關スル件
 大正七年九月阪理第一一號官有地特別處分規則第一條二號ノ適用ニ關スル件
 大正八年十二月岡理第五號鐵道用地管理替ノ件
 第一號様式(國有財產増減報告書)
 何年度內務省所管

國有財產増減報告書

何 (廳 名)

備考

一、公用財產、營林財產及雜種財產毎ニ調製スルモノトス

○雜種財産取扱規程

(大正十一年六月一日
大藏省訓令第二四號)

第一條 雜種財産ノ管理及處分ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ稅務監督局長之ヲ取扱フヘシ

第二條 稅務監督局長ハ常ニ所轄内ニ於ケル雜種財産ノ狀況ニ注意シ尙臺帳登錄漏又ハ引繼漏ノモノナキカヲ調査スヘシ

第三條 各省部局長ヨリ雜種財産ノ引繼ヲ受クル場合ニ於テハ成ルヘク實地調査ノ上之ヲ爲スヘシ

第四條 雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一、臺帳記載事項

二、賣拂價格ニ關スル調査

三、代金納付ノ方法及時期

四、指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラントスルモノニ付テハ其ノ事由

五、隨意契約ニ依リ特定ノ者ニ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ其ノ相手方

六、賣拂ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

七、其ノ他參考トナルヘキ事項

前項第二號ノ調査ハ賣實例精通者ノ意見其ノ他ノ資料ニ依リ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ

第五條 前條ノ稟請ニ對シ隨意契約ニ依ル賣拂ノ指令ヲ受ケタルトキハ官報新聞紙揭示又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告シ成ルヘク廣ク見積書ヲ徵スヘシ但シ特定ノ者ニ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ハ此限ニ在ラス

第六條 雜種財産ノ讓與ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一、臺帳記載事項

二、讓與人相手方及讓與ヲ必要トスル理由

三、讓與ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

四、其ノ他參考トナルヘキ事項

第七條 雜種財産ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一、臺帳記載事項

二、交換ニ依リテ取得スヘキ物件ノ種目所在及員數

三、交換ノ相手方及交換ヲ必要トスル事由

四、目的物ノ價格評定調査

五、交換ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

六、其ノ他參考トナルヘキ事項

第四條第二項ノ規定ハ前項第四號ノ調査ニ付之ヲ準用ス

第八條 寄附其ノ他ノ名義ニ依リ雜種財産ヲ取得セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

請スヘシ

- 一、財産ノ所在種目數量及見込價格
- 二、相手方及取得ノ事由
- 三、條件アルモノハ其ノ條件
- 四、其ノ他參考トナルヘキ事項

第九條 雜種財産ヲ貸付セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

- 一、臺帳記載事項
- 二、貸付ノ目的
- 三、貸付期間其ノ他ノ條項
- 四、貸付料ニ關スル調書
- 五、其ノ他參考トナルヘキ事項

前項ノ場合ニ於テ無償貸付ヲ爲スノ必要アルトキ及指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラムトスルトキハ其ノ事由ヲ具申スヘシ

第十條 前條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル場合ヲ除クノ外三百坪未滿ノ土地ニシテ其ノ貸付料年額百圓ヲ超エサルモノノ一年以内ノ貸付ニ付之ヲ適用セス

第十一條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ雜種財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス但シ法令ノ規定ニ依リ土地ノ使用ヲ爲シ得ルモノニ對シテハ稅務監督局長限リ之ヲ認容スルコトヲ得

第十二條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

- 一、事業計劃書要領
- 二、事業者
- 三、事業成功ヲ條件トシテ爲スヘキ豫約ノ種類
- 四、豫約賣拂價格又ハ貸付料評定調書
- 五、着手及成功豫定期間
- 六、其ノ他參考トナルヘキ事項

第十三條 國有財産法施行令第二十五條第二項及第二十六條第二項ノ規定ニ依リ豫定期間ノ延長ヲ承認セムトスルハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第十四條 前二條ノ規定ハ三千坪未滿ノ土地又ハ水面ニ係ル場合ニ之ヲ適用セス

第十五條 賣拂讓與交換貸付又ハ貸付ニ準スヘキ契約ヲ解除セムトスルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラ

第十六條 雜種財産ノ管理及處分ニ關シ通常裁判所ニ出訴スルノ必要アルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 雜種財産ノ台帳ハ稅務監督局ニ之ヲ備ヘ稅務署ニハ其ノ副本ヲ備フヘシ

第十八條 台帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ重要ナラサル財産ニ係ルモノト雖漸次之ヲ調製スヘシ

第十九條 雜種財産ニ増減異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ台帳ニ登録シ附屬圖面ヲ補修スヘシ

第二十條 雜種財産ヲ台帳ニ登録シタルトキハ決議書類調査書類其ノ他ノ關係書類ニ登録濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ニ認印スヘシ

第二十一條 稅務監督局長ハ雜種財産貸付簿ヲ備ヘ雜種財産ニ付爲シタル貸付及貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル事項ヲ登錄整理スヘシ

第二十二條 稅務監督局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲計算證明規程ニ依リ國有財産増減計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ直ニ會計検査院ニ提出スヘシ

第二十三條 稅務監督局長ハ國有財産法施行規則第三號様式ニ準シ每會計年度間ニ於ケル雜種財産ノ増減報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ臨時國有財産整理部長ニ送附スヘシ

第二十四條 稅務監督局長ハ國有財産法施行規則第二號様式ニ準シ每五年三月三十一日現在ニ於ケル雜種財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ臨時國有財産整理部長ニ送付スヘシ

第二十五條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ其ノ都度臨時國有財産整理部長ニ報告スヘシ

一、各省ニ於テ公共用財産又ハ公用財産トシテ整理スルモノ、内雜種財産ト爲スヘキモノヲ發見シタルトキ

二、雜種財産ノ保管ノ爲監守人ヲ置キ其ノ他特別ノ取扱ヲ爲シタルトキ

三、雜種財産ニ付境界査定ヲ了シタルトキ

四、前號ノ境界査定ニ對シ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及行政裁判所ノ判決アリタルトキ

五、雜種財産ニ付通常裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及通常裁判所ノ判決アリタルトキ

第二十六條 雜種財産ノ賣拂、讓與、交換又ハ貸付若ハ貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル願書ハ稅務監督局長ヲ經由シ大藏大臣宛ニ之ヲ提出セシムヘシ

稅務監督局長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 公共團體ト契約ヲ締結セムトスル場合ニハ其ノ願書ニ其ノ議決機關ノ決議ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ決議書ノ謄本ヲ添付セシメ尙監督官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ許可書ノ謄本ヲ提出セシムヘシ

第二十八條 府縣社以下ノ神社ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ神職及氏子又ハ崇敬者總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ

寺院ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ住職及檀徒又ハ信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書

ヲ附セシムヘシ
祠宇ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ受持教師及信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書ヲ附セシムヘシ

佛堂ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ受持僧侶及信徒總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ
第二十九條 雜種財産タル不動産ニ關スル權利ノ得喪變更アリタルトキハ不動産登記法ノ定ムル所ニ依リ遲滞ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附 則

第三十條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第三十一條 稅務監督局長ハ國有財産法施行規則第二號様式ニ準シ大正十一年四月一日現在ニ於ケル雜種財産現在額報告書ヲ調製シ九月三十日迄ニ臨時國有財産整理部長ニ送付スヘシ

第三十二條 稅務監督局長會計検査院ニ證明ノ爲調製スル國有財産増減計算書ハ大正十一年度ニ限り一年分ヲ取纏メ翌年度四月末日迄ニ直ニ會計検査院ニ提出スヘシ第二十二條第二項ノ増減計算書ハ大正十一年度ニ限り一年分ヲ取纏メ翌年度四月末日迄ニ之ヲ臨時國有財産整理部長ニ送付スヘシ

○河川法ノ規定ニ依ラサル河川ノ水流水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノ、用途廢止ニ關スル件
(大正十一年六月二十一日) (內務省訓令第一一號)

公共用財産中河川法ノ規定ニ依ラサル河川、水流水面ニシテ河川法ニ依ル河川ニ關スル工事ノ爲不用ニ歸スルモノ、用途廢止ニ付テハ部局長タル北海道廳長官及府縣知事ハ稅務監督局長ニ通知ヲ發スル前其用途廢止ノ事由ヲ記シタル書類ニ圖面ヲ添付シ豫メ內務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

○公共用又ハ神社ノ用ニ供シタル土地ノ用途廢止ノ場合ニ關スル件
(大正十一年九月二十七日) (內務省訓令第七六三號)

公共用又ハ神社ノ用ニ供シタル土地ノ用途廢止ノ場合ニ於ケル國有財産法施行令第二條第一項ノ規定ニ依ル協議及其ノ土地ノ處分ニ關シテハ當該稅務監督局ト協議ノ上其ノ廳限リ處分スヘシ
○農商務省所管國有林野ヲ公共用財産管理換ニ關スル件
(大正十二年五月十日大藏省) (訓令第九號稅務監督局)

內務省部局長ヨリ農商務省所管國有林野ヲ公共用財産トナス爲管理換ノ協議ヲ受ケ又ハ大林區署長ヨリ內務省所管公共用財産若ハ神社ノ用ニ供スル公用財産ヲ營林財産トナスタメ管理換ノ協議ヲ受ケタルトキハ調査ノ上其ノ局限リ處理スヘシ內務省部局長ヨリ神社ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ土地ノ寄附受納ニ付協議ヲ受ケタルトキ亦同シ

○國有財産法施行令中條文ノ適用ニ關スル件
(大正十一年六月十九日課第二九八號) (各地方長官宛內務省會計課長)

國有財産法施行令第一條第一項第二號ノ從物ハ其ノ主物ト分離シ從物タル關係ヲ廢スル場合ニ於テ國有財産法施行令第二條第二項ノ所謂「用途廢止ト同時ニ國有財産タル性質ヲ失フモノ」トナル義ニ有之候條爲御參考及通牒候也

○公用財産ノ用途廢止ノ際單ニ事前ノ通知ニ止メ之レカ引繼ヲ爲サ、ルモノ、取扱ニ關スル件

(大正十一年六月十九日課第二九九號) 各地方官宛内務省會計課長通牒

當省所管左記公用財産ハ用途ヲ廢止シタル後モ大藏大臣ニ引繼ヲ爲サ、ルコトニ協議ヲ遂ケ候條用途廢止ノ必要アル場合ハ内務省所管國有財産取扱規程第七條ニ依リ内務大臣ニ稟議ノ上相當御處理相成度候

記

- 一、船舶及浮標及浮棧橋
- 二、建物又ハ工作物ニシテ取毀ノ目的ヲ以テ其ノ用途ヲ廢止スルモノ
- 三、立竹木但土地ノ用途廢止ニ伴フ場合ヲ除ク

○地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用收益ノ件

(明治二十四年六月十日) 縣達甲第一〇六號

郡 役 所
町 村 役 場

- 一 地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル町村ニ於テ處分スヘシ但處分方ノ儀ハ前以テ當廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 一 前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其ノ費用ヲ負擔スル町村ノ收入ニ屬スヘシ
- 一 費用ノ主負擔定マラサルカ又ハ年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ所屬町村ニ於テ處分方當廳ニ申出ツヘシ
- 一 地盤ノ町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ町村ノ管理ニ歸スヘシ

○地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料等取

扱方ノ件 (明治二十一年七月) 内務省訓令第一七號

- 一 地方稅又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木敷貸渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木拂下代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス
- 一 修繕費ノ全部ヲ地方稅ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方稅ハ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ毎年度ニ於テ編入セシムヘシ

- 一 修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方税ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費へ編入セシムヘシ
- 一 地方税ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ
- 一 地方税ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入スヘシ
- 一 區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用悪水路土居敷修繕費及並木植繼及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ
- 一 前各項ノ收入金ニシテ府縣廳へ積置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

耕地整理法拔萃

(明治四十二年四月十三日) 法律第三十號

- 第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一二該當スル事項ヲ行フヲ謂フ
- 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其他區別形質ノ變更湖海ノ埋立、干拓若ハ細路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
 - 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設
 - 三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必
 - 四 前二號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第七條 主務大臣地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス

耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第四十三條 左ニ掲クル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スルモノ、同意ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

- 一 御料地、國有地
- 二 官ノ用ニ供スル土地
- 三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
- 四 名勝地、舊蹟地
- 五 古墳墓地、墳墓地

- 六 社寺境内地
- 七 鐵道用地、軌道用地
- 八 建物アル宅地

登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官廳ノ認許ヲ得タルトキハ其ノ地上權者又ハ永小作權者ヲ組合員ト爲シ其ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ地上權者又ハ永小作權者カ組合員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 特別ノ價值又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス土地收用法第四十七條乃至第四十九條第五十一條乃至第五十四條第五十六條、第五十八條、第六十條、及第六十一條ノ規定ハ前項ノ但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サ、ルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第八十七條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

●耕地整理法施行規則拔萃

(明治四十二年十月十二日)
(農商務省令第三十九號)

第七條 國有地又ハ府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地區ニ編入スル爲耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認許ヲ申請スル場合ニ於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

但規約ヲ以テ整理施行地名ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ第五號、第六號、第七號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ

○内務省所管國有土地水面を耕地整理ノ地區ニ編入

ニ關スル件 (大正十一年七月二十五日)
(内務省訓令第一五號)

當省所管ノ國有土地水面ヲ耕地整理法ニ依リ耕地整理地區ニ編入ノ認許申請アリタル場合ニ於テ左ニ掲ケタルモノニ該當スルトキハ本大臣ニ稟請シ其ノ他ハ其ノ廳限リ處分スヘシ

- 一、公用財産ニ屬スルモノ
- 二、史蹟名勝天然記念物ニ指定シタルモノ
- 三、國ニ於テ改修工事ヲ施行スル河川ニ關係アルモノ
- 四、前號ノ外河川法ヲ施行シタル河川若ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川ニ關係アルモノ但シ耕地整理地區ニ編入ノ結果施行スヘキ工事ニシテ道府縣廳限リ處分シ得ヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

○國有地ヲ耕地整理施行地區ニ編入取扱ノ件

(大正十一年七月二十六日發土第六七號) (各地方長官宛内務次官通牒)

大正十一年七月二十五日訓第十五號ヲ以テ國有地ヲ耕地整理施行地區ニ編入ノ認許ニ關スル件訓令相成候處耕地整理法ニ依リ河川、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ヲ耕地整理施行地區ニ編入シ又ハ該地區内ニ之ヲ開設スル等ノ場合ニ於テ他ノ法律命令又ハ訓令等ニ依リ工事又ハ其ノ他ノ行為ニシテ許可若ハ認可ヲ受クヘキモノハ總テ其ノ手續ヲ履行セラルヘキ筈ニ有之又河川法施行ノ河川及其ノ附屬物ノ敷地ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得サルヲ以テ耕地整理施行地區内ニ編入スルコトヲ得サル義ニ候條右様御承知相成度

○耕地整理施行地區内ニ於ケル道路等ノ新設變更廢止及國有地ヲ同地區ニ編入認可申請書等様式

(明治四十五年六月十四日) (告示 第九十三號)

耕地整理施行地區内ニ於ケル道路溝渠等ノ新設、變更、廢止及内務省主管ニ屬スル國有地ヲ同地區ニ編入認可申請書様式左ノ通り定ム
明治四十四年二月告示第六十七號ハ之ヲ廢止ス (明治四十二年十月十二日)

第一號様式

申請書

郡(市)町(村)大字耕地整理施行地區(又ハ何々組合)

今般耕地整理組合設立(又ハ耕地整理施行)認可申請ニ付テハ甲號調書ノ道路、溝渠(堤塘溜池等)ヲ乙號調書ノ通り新設、變更、廢止並甲號調書ノ國有地ヲ同地區ニ編入致度候間御認可相成度別紙關係書類並圖面相添此段申請候也

郡市町村大字番地

年 月 日 申請者 氏 名 印
(又ハ組合長 氏 名 印)

甲 知 事 宛 調 書

町村(市)	大字	字	地番	地目	地區編入反別	幅員延長	尺寸	間分	摘 要
何々	何々	何々	何々	道路	反				何間存置、變更、廢止、改修等
同	同	同	同	溝渠					
同	同	同	同	池					

七、流域二府縣以上ニ跨ル河川ニ關係アル土地、水面、國道、縣道、社寺境内地、名勝地、舊跡地等ヲ整理地區へ編入セントスル場合ハ申請書正副二通提出ヲ要ス

第二號様式 申 郡市町村大字耕地整理施行地區(又ハ何々組合)
何年何月何日付第何號ヲ以テ國有地ヲ整理地區ニ編入ノ義御認可相成候處何年何月何日耕地整理

工事完了ニ付右地區内甲號調書ノ不用國有地ハ無償交付並乙號調書ノ土地ハ國有地ニ編入相成度別紙圖面相添此段申請候也

郡市町村大字番地

申請者 氏 又ハ組合長 氏 名 印

別紙 甲號 知事宛 調書

町村(市)	大字	字	地番	舊地目	新地目	反別	幅員	延長	價格	摘
何々	何々	何々	何々	道路	溝渠	反	圓	圓	圓	廢止又ハ變更ノ爲不用
同	同	同	同	溝渠						

町村(市)	大字	字	地番	舊地目	新地目	反別	幅員	延長	價格	摘
何々	何々	何々	何々	山林	道路	反	圓	圓	圓	甲號調書何番道路ノ代地
同	同	同	同	溝渠						

乙號 調書

町村(市)	大字	字	地番	舊地目	新地目	反別	幅員	延長	價格	摘
何々	何々	何々	何々	山林	道路	反	圓	圓	圓	甲號調書何番道路ノ代地
同	同	同	同	溝渠						
同	同	同	同							
合計										

備考	内	
	溝	渠
一	何	々
二		
三		
四		
五		

- 備考
- 一 地籍地番等ハ第一號様式備考第一項ニ依リ取調記載シ且ツ價格ハ總テ時價ヲ記入スヘシ
 - 二 町村別ニ小計ヲ附スヘシ
 - 三 乙號調書ニハ不用國有地ニ代ルヘキモノノミヲ掲記スヘシ
 - 四 圖面ハ第一號様式備考第五項ニ依リ調製シ二通添付ヲ要ス
 - 五 本件申請書ハ換地處分認可申請書ト同時提出ヲ要ス

○耕地整理事業施行ニ伴ヒ施設スル工事其ノ他ノ

行為ノ許可若ハ認可申請ニ關スル手續(大正二年三月七日 縣令 第十一號)

耕地整理事業施行ニ伴ヒ施設スル工事其ノ他ノ行為ノ許可若ハ認可申請ニ關スル手續左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

耕地整理事業ノ施行ニ伴ヒ施設スル工事其ノ他ノ行為ニシテ知事ノ許可若ハ認可ヲ要スルモノハ耕地整理組合設立又ハ耕地整理施行認可申請書ニ當該事項ヲ併記シ許可若ハ認可ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ耕地整理組合設立又ハ耕地整理施行ヲ許可セラレタルトキハ其ノ整理施行ニ伴

ヒ施設スル工事其ノ他ノ行為ハ同時ニ之ヲ許可若ハ認可セラレタルモノト看做ス

○地租條例 (拔萃) (明治十七年三月十五日 大政官布告第七號)

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

畑地 地價百分ノ四箇五

其他ノ土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

田 地價百分ノ三箇二

畑 地價百分ノ四箇

其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地台帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一、國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二、府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三、府縣社地鄉村社地招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス

四、墳墓地

五、用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六、鐵道用地、軌道用地、運河用地

七、保安地

八、公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スル事ヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ免租年期ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其ノ狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ免租年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙荒地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖

ニ歸スルモノトス

土地臺帳規則

(明治二十二年三月二十三日) 勅令 第三九號

第一條 土地台帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地台帳ハ「府縣廳ニ於テ」町村ノ土地台帳ハ「島廳郡役所」ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地台帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地台帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做コトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地台帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

○土地臺帳規則施行細則

(明治二十二年四月一日) (大藏省令第六號) (明治三十四年一月同號同年四月同第八號三十八年三月同第一二號三十九年五月同第二〇號改正)

第一條 土地台帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目反別等級地價及所有者質取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條 土地台帳記載ノ所有者質取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第三條 土地台帳ノ謄本ヲ請求セムトスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ「府縣廳」町村ハ

「島廳郡役所」ニ申出ヘシ

國有地 御料地ノ拂下讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セズ
謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス

第四條 土地台帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雜形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

郡	市	町村	大字	字	地番	地目	反別又ハ坪數	地價	事故	所有者住所氏名

何 稅 務 署 印

年 月 日

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ設定移轉消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登錄セス但シ國有地御料地ノ拂下讓與下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地下爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所

ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登錄ス

○荒地年期明川成(湖水成)土地ニ付上申

(明治二十八年十月) 長野縣訓令第九一號

町村役場

地租條例第二十四條荒地年期明川成湖水成ノ土地ニ付キ明治廿三年二月縣令第十三號地租條例施行ニ關スル心得書第十二條ニ依リ届書ヲ差出シタルモノアルトキハ町村長ハ別紙書式ニヨリ其土地及事由ヲ上申スヘシ但シ上申書ニハ一筆毎ニ圖面ヲ添付スルヲ要ス

書式

荒地年期明川成(湖水成)土地ニ付上申

郡町村大字

地番	字	地目	反別	地價	事由	川(湖)	地番	住所	氏名
番		荒地	反	圓	由	番	番		
					明治何年ヨリ何年迄何々年免租繼年期ノ處期明				

右本年々々期明ノ處川(湖)ニ變シ到底起返スヘキ目的無之旨地主ヨリ届書差出候間地種變換相成度別紙繪圖面相添ヘ此段及上申候也
年 月 日
町村長名

知事宛

(備考) 一 此上申書ハ地主ノ届書ヲ收稅署ニ發送スルト同時ニ所轄郡役所ヲ經由差出スヘシ
一 川(湖)地番トアル欄ニハ河川道路溝渠湖地等取調帳ニアル其川(湖)ノ地番ヲ記載スヘシ
一 圖面ハ荒地區域ヲ詳記スヘキ様調製シ每筆地番地目反別及地主ヲ標記スヘシ

○不動産登記法拔萃

(明治三十二年二月二十四日) 法律第二十四號

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定保存移轉變更處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

- 一、所有權
- 二、地上權
- 三、永小作權
- 四、地役權
- 五、先取特權
- 六、賃權
- 七、抵當權
- 八、賃借權

第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一、登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
- 二、前條ニ掲ケタル權利ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ
- 右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スルヘキモノナルトキ亦同シ
- 第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無効又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付キ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第七條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第十一條 登記所ハ土地ニ付キ左ニ掲ケタル事項ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ土地台帳所管廳ニ通知スルコトヲ要ス

- 一、所有權ノ保存若クハ移轉
- 二、質權ノ設定及ヒ存續期間存續期間ノ變更移轉若クハ消滅

三、百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ設定移轉若クハ消滅又ハ百年ヨリ長キ存續期間ヲ百年以下ニ變更シ若クハ百年以下ノ存續期間ヲ百年ヨリ長キ期間ニ變更シ又ハ存續期間ノ定ナキ地上權ニ百年ヨリ長キ期間ヲ定メ若クハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ヲ存續期間ノ定ナキモノト爲シタルコト

四、所有權質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ登記名義人ノ表示ノ變更 (大正二年四月改正)

第二十一條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求シ又利害ノ關係アル部分ニ限り登記簿又ハ其附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得手續料ノ外郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條ノ二 登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者カ不動産ノ目錄ヲ提出シタルトキハ登記所ハ其書面ヲ用キテ謄本又ハ抄本ヲ作成スルコトヲ得

第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十六條 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條ノ二 滯納處分ニ因ル差押ノ登記ヲ囑託スル場合ニ於テ必要アルトキハ官廳又ハ公署ハ登記名義人又ハ相續人ニ代リ不動産ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル權利移轉ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二十八條ノ三 第四十六條ノ二第五十條第三項第六十條ノ二及ヒ第六十三條ノ三ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス(大正二年四月改正)

第二十九條 官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條 官有不動産又ハ府縣郡市町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條 官廳又ハ公署カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面及ヒ登記義務者ノ承諾書ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス
官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ變更又ハ處分ノ制限ニ付キ爲スヘキ登記ハ官

廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲ添付スルコトヲ要ス
官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十五條 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一、申請書

二、登記原因ヲ證スル書面

三、登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證

四、登記原因ニ付キ第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面

五、代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面

登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス

第三十六條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一、不動産所在ノ郡市區町村字及ヒ土地ノ番號
- 二、地目及ヒ段別又ハ坪數

三、申請人ノ氏名住所若シ申請人カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

四、代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其氏名住所

五、登記原因及ヒ其日附

六、登記ノ目的

七、登記所ノ表示

八、年月日

第三十七條 登記スヘキ權利ノ目的カ建物ナル場合ニ於テハ申請書ニ其種類構造及ヒ建坪ヲ記載シ若シ建物ノ番號アルトキハ其番號ヲ記載シ附屬建物アルトキハ其種類構造及ヒ建坪ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第二號ニ揚ケタル事項ハ前項ノ申請書ニハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第三十八條 登記原因ニ買戻ノ特約其他登記ノ目的タル權利ノ消滅ニ關スル事項ノ定アルトキハ申請書ニ其事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條 登記權利者カ多數ナル場合ニ於テ登記原因ニ其持分ノ定アルトキハ申請書ニ其持分ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ノ副本ヲ提出スルコトヲ要ス

第四十一條 登記原因カ相續ナルトキハ申請書ニ相續ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足

ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十二條 申請人カ登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ナルトキハ申請書ニ其身分ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十三條 登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其表示ノ變更ヲ證スル戸籍吏ノ書面又ハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四十四條 登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證力滅失シタルトキハ申請書ニ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル成年者二人以上カ登記義務者ノ人違ナキコトヲ保證シタル書面ニ通テ添附スルコトヲ要ス

第四十五條 申請書ニ第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其第三者ヲシテ申請書ニ署名捺印セシメテ其書面ニ代フルコトヲ得

第四十六條 同一ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數個ノ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テハ登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ナルトキニ限リ同一ノ申請書ヲ以テ登記ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條ノ二 債權者カ民法第四百廿三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ又同シ

(大正二年四月改正)

第六十條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記原因ヲ證スル書面又ハ申請書ノ副本ニ登記番號申請書受附ノ年月日受附番號順位番號及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登記權利者ニ還付スルコトヲ要ス

申請書ニ添附シタル登記濟證又ハ第四十四條ニ掲ケタル書面ノ一通ニハ申請書受附ノ年月日受附番號順位番號登記權利者ノ氏名住所登記原因其日附登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登記義務者ニ還付スルコトヲ要ス但登記名義人カ多數ナル場合ニ於テ其一部カ登記義務者ナルトキハ登記義務者ノ氏名住所ヲモ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名住所及ヒ他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第六十條ノ二 第四十六條ノ二ノ場合ニ於テ登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ前條第一項ニ掲ケタル書類ヲ債權者ニ還付シ且登記濟ノ旨ヲ登記權利者ニ通知スルコトヲ要ス

(大正二年四月改正)

第六十二條 官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 登記官吏カ登記ヲ完了シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記權利者及ヒ登記義務者ニ通知スルコトヲ要ス但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ニ通知スルヲ以テ足ル

第六十三條ノ二 前條ノ場合ニ於テ登記ノ錯誤又ハ遺漏カ登記官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アル

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 登記ヲ爲シ又ハ申請書其他登記ニ關スル書面ヲ作ルニハ字畫明瞭ナルコトヲ要ス金錢其他ノ物ノ數量年月日及ヒ番號ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ字ヲ用ケルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ之ニ捺印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存スルコトヲ要ス

第七十九條 土地ノ分合滅失段別若クハ坪數ノ増減又ハ地目若クハ番號ノ變更アリタルトキハ其土地ノ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 前條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ土地ノ分合滅失若クハ増減シタル段別若クハ坪數並ニ現在ノ段別若クハ坪數又ハ新地目若クハ新番號ヲ記載シ且土地臺帳

贈本ヲ添附スルコトヲ要ス (改正)

第八十一條 土地ノ分合滅失段別若クハ坪數ノ減少又ハ地目ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ贈本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二條ノ三 既登記ノ土地カ河川ノ敷地ト爲リタル場合ニ於テハ當該官廳ハ遲滯ナク其登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ當該官廳ハ登記名義人又ハ相續人ニ代リ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ囑託ヲ受ケタル登記所ハ登記用紙中表示欄ニ河川ノ敷地ト爲リタル旨ヲ記載シ土地ノ表示表示番號及ヒ登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第二百二條ノ規定ヲ準用ス (大正二年四月八日改正)

第二百三條 土地ノ收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得其申請書ニハ補償金ノ受取證又ハ供託受領證ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ必要アルトキハ起業者ハ登記名義人又ハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示若クハ登記名義人ノ表示ノ變更又ハ相續ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得官廳又ハ公署カ起業者ナルトキハ其官廳及公署ハ遲滯ナク前二項ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第二百五條 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一、土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ被相續人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

二、判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第二百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一、建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者

二、土地臺帳謄本ニ依リ自己又ハ相續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

三、既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

四、判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

第一百十條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産所有權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ第二百五條又ハ第二百六條ノ規定ニ依リテ證明ヲ爲スコトヲ要セス

第一百三十五條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第四百十一條 登記シタル權利カ或人ノ死亡ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テ申請者ニ其死亡ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ添附スルトキハ登記權利者ノミニテ登記ノ消抹ヲ申請スル

コトヲ得

第四百十二條 登記権利者カ登記義務者ノ行方ノ知レサルニ因リ之ト共ニ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ能ハサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ除權判決アリタルトキハ申請者ニ其謄本ヲ添附シ登記権利者ノミニテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ申請者ニ債權證書及ヒ債權並ニ最後ノ二年分ノ定期金ノ受取證書ヲ添附シタルトキハ登記権利者ノミニテ先取特權質權又ハ抵當權ニ關スル登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十六條 登記ノ抹消ヲ申請スル場合ニ於テ其抹消ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ帶納處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第四百十九條 第一百三條ノ規定ニ從ヒ土地收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ申請又ハ囑託アリタル場合ニ於テ其不動産ノ登記用紙中所有權又ハ所有權以外ノ權利ニ關スル登記アルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス但其不動産ノ爲メニ存スル地役權ノ登記ハ此限ニ在ラス

○不動産登記法施行細則拔萃

(明治三十二年五月十二日) 司法省令第十一號

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ其所在地ノ市區町村長(市區町村長ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員)ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 印鑑ハ附錄第八號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ(大正五年司法省令第二十四號ヲ以テ改正)

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及公署ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルモノハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

一、土地所在ノ郡市區町村字及ヒ土地ノ番號

二、手数料ノ金額

二、登記所ノ表示
四、年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十八條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ヲ登記申請スルニ必要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但登録稅法第二條第一項第一號乃至第十七號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

登録稅法第十九條ノ五ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外差稅額ヲ記載スヘシ

(大正三年司法省令第八號ヲ以テ本項追加)

第三十九條 申請書カ數葉ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其一人ノ契印ヲ以テ足ル

第四十條 登記原因ヲ證スル書面カ初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其旨ヲ記載スヘシ

第四十四條ノ三 不動産登記法第百貳條ノ三第一項ノ規定ニ依リ當該官廳カ登記ノ抹消ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ囑託書ニ河川法ノ規定ニ依リ河川ノ數地ト爲リタル旨ヲ記載スヘシ

(同上)

第四十六條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保証人署名捺印スヘシ

- 一、登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示及ヒ登記ノ目的
- 二、登記義務者ノ人違ナキコト
- 三、保証人カ其登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及ヒ年月日又ハ登記番號
- 四、保証人ノ住所年齢
- 五、年月日

○登録稅法拔萃

(明治二十九年三月二十八日法律第二十七號)

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一、法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得
 - 不動産價格 千分ノ五
- 二、第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得
 - 不動産價格 千分ノ五
- 三、遺言贈與其他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
 - 不動産價格 千分ノ六〇

但神社寺院祠宇佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ三十(三十八年法律第五十七號四十三年法律第十一號ニテ改正)

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得 千分ノ六十

但シ神社寺院祠宇佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ歸屬權利者ナルトキハ

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 千分ノ三十

不動產價格 千分ノ三十五

五 從來保有セル所有權ノ保存

不動產價格 千分ノ五

六 共有物ノ分割

分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格 千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得

不動産價格 千分ノ二十五

八 地上權永小作權ノ取得

存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ二

存續期間二十年未滿 不動産價格 千分ノ三

存續期間三十年未滿 不動産價格 千分ノ四

存續期間三十年以上 不動産價格 千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ五

但權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九、賃借權ノ取得 存續期間十年未滿

不動産價格 千分ノ二

存續期間十年以上 不動産價格 千分ノ二

五二一

存續期間ノ定メナキモノ

不動産價格

千分ノ一

五二二

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得

要役地價格

千分ノ一

十一 華族世襲財産ノ創設

不動産價格

千分ノ二十五

十二 先取特權ノ保存又ハ取得

債權金額又ハ不動産
工事費用豫算金額

千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 質權抵當權ノ取得

債權金額

千分ノ六

但債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三ノ二 信託ノ登記

不動産價格

千分ノ五

十四 競賣強制管理ノ申立

債權金額

千分ノ六

但競賣若クハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 假差押假處分

債權金額

千分ノ四

但假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六 抵當アル債權ノ差押

債權金額

千分ノ六

但差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七 相續財産ノ分離

不動産價格

千分ノ六

所有權以外ノ權利ニ付テハ

五二三

十八 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復
不動産 每一箇
千分ノ一

十九 假登記

不動産 每一箇
金二十錢

二十一 附記登記

不動産 每一箇
金十錢

二十 但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
登記ノ更正變更又ハ抹消
不動産 每一箇
金十錢

但シ一件ニ付税額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第十六條 左ノ場合ニ於テ不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 府縣郡市町村ノ廢置分合若クハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
不動産又ハ船舶ノ價格
千分ノ一

二 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ無償名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
不動産又ハ船舶ノ價格
千分ノ一

三 法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利ノ取得
不動産又ハ船舶ノ價格
千分ノ五
他ノ規定ニ依リ算出シタル税額カ前項第三號ニ依ル税額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル
前二項ノ場合ニ於テ税額十錢未滿ナルトキハ十錢トス
第十七號 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
第十九條 左ニ掲クルモノニハ登録稅ヲ課セス
一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記又ハ登録
三 社寺堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登録
四 明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第四百十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記
五 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合又ハ漁業組合聯合會等ニ付産業組

五 産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、漁業組合又ハ漁業組合聯合會等ニ付産業組

合法又ハ漁業法ニ基キテ爲ス登記

- 六 登記又ハ登録スヘキ信託財産ニシテ受託者カ委託行爲ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産取得ノ登記又ハ登録
 - 七 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財産取得ノ登記又ハ登録
 - 八 信託ノ受託者交迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産取得ノ登記又ハ登録
- 前項第六號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者變更ノ登記又ハ登録ヲ受クル場合ニハ之ヲ適用セス
- 此ノ場合ニ於テハ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタモノト看做シ登録税ヲ課ス

○登録税法施行規則拔萃

(明治三十二年五月十九日勅令 第二百五號)

- 第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第二號 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

○印紙税法拔萃

(明治三十二年三月十日法律第五十四號)

第一條 財産權ノ創設、移轉、變更若クハ消滅ヲ證明スヘキ證書、帳簿及財産權ニ關スル追認若クハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作製スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙税ヲ納ムヘシ

第二條 證書ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高十圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙税ヲ納ムヘシ但シ印紙税額百圓ヲ超ユルトキハ百圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上ルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價格ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス(大正十二年三月法律第十二號改正)

第四條 左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙税ヲ納ムヘシ

- 一、貯金通帳積金通帳及積金證書
(貯蓄銀行法第一條ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル)
- 二、産業組合ノ發スル貯金通帳
- 三、産業組合又ハ住宅組合ノ發スル出資證券
- 四、農業倉庫證券
- 五、委任狀
- 六、約束手形
- 七、爲替手形
- 八、銀行預金證書
- 九、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル

一 錢

二 錢

貯金證書

- 十、産業組合聯合會ノ發スル出資證券
- 十一、船荷證券
- 十二、運送貨物引換證
- 十三、倉庫證券
- 十四、保險證券
- 十五、株 券
- 十六、債 券
- 十七、相互保險會社ノ發スル基金證券
- 十八、株式申込證
- 十九、社債申込證
- 二十、地上權永小作權又ハ地役權ニ關スル證書
- 二十一、使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書
- 二十二、信託行為ニ關スル證書
- 二十三、無盡ニ關スル證書
- 二十四、定款又ハ組合契約書
- 二十五、權利ノ變更ニ關スル證書

二十六、追認又ハ承認ニ關スル證書

二十七、物品切手

二十八、賣買仕切書

二十九、物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書

三十、送 狀

三十一、受取書

三十二、金高記載ナキ證書

三十三、擔保品差入證書及擔保品預證書

三十四、通 帳

三十五、判取帳

第五條 左ニ掲ケル證書帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一、官廳又ハ公署ヨリ發スル證書帳簿

二、官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書帳簿

三、國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

四、慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書

五、小切手

六、産業組合産業組合聯合會又ハ住宅組合ノ發スル出資證券ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモ

二十五錢 (同上)

- ノ又ハ金高記載ナキモノ
- 七、記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形
- 八、記載金高十圓未満ノ積金證書及銀行預金證書
- 九、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ
- 十、記載金高一圓未満ノ物品切手
- 十一、記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書
- 十二、物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ又ハ金高記載ナキモノ
- 十三、記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀
- 十四、記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
- 十五、主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書
- 十六、手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
- 十七、株券又ハ債券ニ記載シタル讓渡ノ證明書
- 十八、手形ノ引受及保證
- 十九、手形又ハ證券ノ拒絕證書
- 二十、手形又ハ證券ノ複本及謄本同上

公有水面埋立法

○公有水面埋立法

(大正十年四月八日法律第五十七號
大正十一年四月十日施行)

- 第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ
- 公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス
- 本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス
- 第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スヘシ
- 第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一、其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ
 - 二、其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ
 - 三、其ノ埋立法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ
- 第五條 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一、法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者

二、漁業權者又ハ入漁權者
三、法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者
四、慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受ケル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス

第七條 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的ルメ爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十條 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設カ埋立ノ爲其ノ効用ヲ妨ケラレトキハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ効用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタルモノハ埋立ニ關スル工事ノ着手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ

地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前に其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ依リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之レヲ補償スヘシ

第十六條 埋立ノ免許ヲ受ケタルモノハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

第十七條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社之ヲ承繼ス

第十九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

第二十條 前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス

第二十二條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得但シ埋立地ニ埋立ニ關スル工費用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定スル場合ヲ除クノ外地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタルモノハ其竣功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシテ埋立ノ

免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此限ニ在ラス

前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタルモノニ之ヲ下附スルコトヲ得

第二十六條 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル處分ノ制限ヲ定メタル場合ニ於テハ地方長官ハ第二十二條ノ竣功認可ヲ爲シタル後遲滞ナク其登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除シタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十八條 前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ効力ヲ生セス

第二十九條 前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十條 地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ着手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功認可前ニ限り地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ効力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ埋立ニ關スル工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除却セシメ損害ヲ防止スル爲メ必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一、埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二、埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三、詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四、埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ
- 五、公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ
- 六、公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ
- 七、前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第三十三條 埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ニ更正セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ効力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ効力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ効力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ効力ヲ失ハサリシモノト看做ス
一、免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ
二、第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ着手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ
前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ効力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

第三十五條 埋立ノ免許ノ効力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモ

ノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムルモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免除スルコトヲ得
前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

第三十六條 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者ニ關シ之ヲ準用ス
埋立免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス

埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立追認ニ關シ之ヲ準用ス
第三十七條 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十八條 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者
- 二、詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者
- 三、埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタルモノ
 - 二、第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事ヲ爲シタル者
 - 三、第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者
- 第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ

埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條第十四條第十五條第三十一條第三十七條及第四十四條ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立

ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依ル行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分

ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限リ下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ付テハ區會又ハ區長ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得
地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○公有水面埋立法施行令

(大正十一年四月七日 勅令第九十四號)

第一條 公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス
都市計畫法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條 埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

一、出願人ノ住所職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付出願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

二、埋立ノ場所及其ノ面積

三、埋立ノ目的

四、埋立ニ關スル工事ノ着手及竣功ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一、埋立ニ關スル工事ノ計畫說明書

二、埋立ニ關スル費用ノ明細書

三、公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

四、公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルヘキモノアルトキハ其ノ施設ノ種類及其施設ヲ爲シタル者ヲ記載シタル書面

五、一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テハ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六、海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ掲ケルモノ、外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ通

第三條 埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ届書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ掲ケル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ届書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ三月以内ニ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ届出ヲ爲セタルトキハ之ヲ共同出願人トス

第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社力其ノ發起人ノ爲セタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存続スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社力合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

第四條 地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

第五條 同一區域ニ互ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價值最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ、次ニ出願受理ノ日先ナルモノヲ免許スヘシ

前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條 地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ掲ケル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條 地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其損害ノ補償請求スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヒタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項

ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設ヲ爲ス
モ尙損害アル場合ニ於テ其ノ損害ニ付亦同シ

前二項ノ施設又ハ補償ハ埋立ニ因リ通常生スヘキ損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ
第十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有
スル者ト協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ヒタルトキハ當事者ハ連名ニテ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ願末
ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者
ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ
裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書協議ヲ爲スコト能
ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第十二條 地方長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ
對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ但シ告知スルコト能ハ
サル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立法第四條ノ
權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ

其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ公有水面埋立法

第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求メムトスル者ハ其ノ目的及事由

ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要領及指定ス
ル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ處分ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ指定
シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準シ施設又ハ補
償ヲ命スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三ヲ埋立ノ免
許料トシテ徴收スヘシ

埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之ヲ認定ス

第十七條 公共團體ノ爲ス埋立祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利ヲ目的トセザ
ルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ爲ス埋

立ニ付テハ免許料ヲ徵收スルコトヲ得ス
公共團體ノ爲メ埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ變更シタル
トキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徵收ス但シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利用方法變更ノ日ヲ標準
トス

前條ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ
第十八條 免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支
出シタル河川港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免許料ノ全部又ハ一部ヲ其
ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方長官之ヲ定
メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十九條 免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半額ニ付テハ
地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第十七條第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徵收スル場合ニ於テハ地方長官ハ免許料ノ額及納付期限
ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

第二十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間ノ伸長ノ許
可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ起算シ少クトモ二週間

前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邸内ニ付テハ日出前日没後ハ占有者ノ
ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又ハ使用ヲ爲
スヘキ土地ノ所在區域及現況所有者及占有者ノ住所及氏名並立入又ハ使用ノ目的時期及ヒ期間
ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

第二十三條 公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知又ハ告示
ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受
クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及ヒ埋立ヲ
爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ

地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シ
タルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者又ハ
承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ告示スヘシ

第二十五條 竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ添附スヘシ
第二十六條 公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

一、耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置

二、開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナル工作物ノ設置

三、簡易ナル一時的ノ工作物ノ設置

第二十七條 公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

前項ノ規定ニ依ル歸屬ハ地方長官埋立ノ免許條件ヲ以テ之ヲ指定スヘシ
第二十八條 公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋立地ノ所有權ヲ取得ス

第二十九條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル工事トシテ其ノ國有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル場合ニ限リ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附ス
前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下附スルコトヲ得
前二項ノ國有地ハ國ノ所有ニ屬スル水流又ハ水面ヲ包含ス
第三十條 本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

第三十一條 第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキ公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 左ニ掲グル事項ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一、第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否
 - 二、内務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許
 - 三、前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ボスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 四、内務大臣ノ指定スル港灣ノ埋立ノ免許
 - 五、海峡、堀割其ノ他ノ狹水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流、水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行礙泊ニ影響ヲ及ボスノ虞アルモノノ免許
 - 六、潮流、水流、水深、水質又ハ底質ニ影響ヲ及ボシ重要水産動植物ノ蕃殖ヲ著シク害スルノ虞アル埋立ノ免許
 - 七、埋立ノ面積五十町步ヲ超ユル埋立ノ免許
 - 八、第十八條ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ヲ定ムルコト
 - 九、公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認
- 第三十三條 公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ
- 一、水産物養殖場ノ築造

二、乾船渠ノ築造

本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依ル築造ノ免許ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受クル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條 埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同シテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 本令ニ於テ住所職業及氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條 本令中市會ニ關スル規定ハ北海道區制ニ依ル區ニ付テハ區會ニ、町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附 則 本令ハ公有水面埋立法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件

(大正十一年四月二十日發土第三) 五號各地方長官宛土木局長通牒) 公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知ノ上御處理

相成度

一 法第一條及施行令第一條ノ「溝渠又ハ溜池」中ニハ泉惡、水溜、水游、埴廻シ、埴游等溝渠又ハ溜池ニ準スヘキ水流水面ヲ包含シ又「變更」中ニハ位置形狀ノ變更ハ勿論個數ヲ増減シ又ハ從前ト同一ノ用途ニ供スル目的ヲ以テ溜池ニ更フルニ揚水機ヲ新設スル場合ヲモ包含スルモノトシテ御取扱相成可然

二 從來埋立免許願書ハ下級行政廳ヲ經由シテ提出セシムル向モ有之候處爾今ハ直按道府縣廳ニ提出セシムルコトニ御取扱相成度尙競願處理ノ關係モ有之願書受理ノ日ヲ明確ナラシムル様御

注意相成度

三 河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ公有水面埋立法ノ適用ナキ義ニ付御注意相成度

四 土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サル外國人及外國法人ニハ埋立ヲ免許スルヲ得サル義ニ付御了知相成度

五 施行令第二條ノ圖面ハ左ノ通調製セシメラレ度

一 一般平面圖 縮尺五萬分ノ一以上ノ陸地測量部ノ刊行圖又ハ之ニ準シ調製シタル圖面ニ埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載スルコト

二 實測平面圖 縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立ニ關スル工事計畫區域ノ全部及其ノ周圍ノ地形及工作物ノ位

置等ヲ示シ且工事計畫區域内及其ノ附近ニ名勝舊蹟古墳墓天然紀念物等アルトキハ其ノ名稱及位置ヲ示スコト

三 求積平面圖
縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立地ノ面積算出ノ方法及計算表ヲ記入シ且埋立地内ニ於ケル堤防道路溝渠物揚場其ノ他ノ工作物ノ敷地ヲ區別シテ明記スルコト

四 横斷面圖及縱斷面圖
縮尺ハ横五千分ノ一以上縦百分ノ一以上トシ水準基線ハ陸地測量部水準基標ニ準據スルコト但シ陸地測量部水準基標ニ準據スルコト能ハサル場合ニハ別ニ水準基標ヲ設クルコト

五 工作物構造圖
縮尺ハ百分ノ一以上トシ其ノ構造及寸法ヲ示スコト第四號及第五號ノ圖面ニハ高水位、低水位又ハ滿潮位干潮位等ヲ記載スルヲ要ス

六 埋立地ト公有水面トノ境界ハ潮汐干満ノ差アル水流水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル滿潮位其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコトニ御取扱相成度

七 施行令第五條中「埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ」トアルハ埋立ニ關スル工事ノ施行カ公益上支障ナク且事業遂行ノ見込確實ナルモノニシテ埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ免許シ得ヘキモノヲ指ス義ニ有之

八 公共團體ノ出願ト個人ノ出願トカ競願トナリタルトキハ事業計畫上ヨリ觀察シテ公益上及經濟上ノ價值同等ナル場合ニハ公共團體ノ出願ヲ以テ公益上ノ價值大ナルモノトシテ處理スヘキ義ト御了知相成度

九 法第十一條ノ「其ノ事件ノ要領」トハ少クトモ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ住所氏名、埋立ノ場所埋立ノ面積埋立ノ目的並埋立ニ關スル工事ノ着手及竣工ノ期限ヲ包含スル義ニ有之

十 施行令第十八條ノ規定ニ依リ免許料ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ於テハ大體國又ハ各地方公共團體カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ヲ標準トシ歸屬ノ割合ヲ定メ例ヘハ地方公共團體カ費用ノ全部ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル場合ニ於テハ免許料ノ全部ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度

十一 法第二十七條ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ニ定ムルコトヲ得ルハ埋立ノ免許條件ヲ以テ埋立地ニ關シ竣工認可後ニ於テ遵守スヘキ義務ヲ命スルヲ要スル場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

十二 施行令第二十五條ノ實測平面圖及求積平面圖ハ縮尺ヲ貳千五百分ノ一以上トシ第五項ノ實測平面圖及求積平面圖ニ準シ何レモ實測シタル結果ヲ記入セシメラレ度

十三 埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付其ノ竣工期間ヲ指定シタルモノニ就テハ其竣工區域毎ニ竣工認可ヲ爲スヲ妨ケサレトモ右ハ殘工事ノ竣工ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

十四 從來護岸堤塘ハ總テ之ヲ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成居候向モ有之候處爾今ハ公用

又ハ公共ノ用ニ供スルノ必要アリト認ムルモノニ限リ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度
十五 法第四十二條ノ承認又ハ通知ニ付テハ施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準
シ適宜御措置相成度尙各省ヘ其旨及通牒置候條御了知相成度

十六 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可申請ノ場合ニハ左ノ事項ヲ詳具セラレ度
一 埋立ノ免許ノ事由尙施行令第三十二條第一號ノ場合ニ於テハ其ノ許否ノ事由
二 埋立ノ免許又ハ追認ノ條件
三 起業ノ確否

四 免許料算定ノ基礎
五 施行令第三十二條第八號ノ場合ニ在リテハ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬
ノ割合ヲ定ムル根據尙施行令第三十二條第一號乃至第七號及同令第九號ノ場合ニハ其ノ免許
願書類ノ副本ヲ添付相成度

十七 國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於テ施行令第三十二條各號ニ該當スル事項ニ就テハ當省大臣ノ
認可ヲ受ケラレ度

十八 施行令第三十二條第二號ノ河川ノ支派川等ニ於ケル埋立ニシテ之ニ著シク影響ヲ及ホス虞
アルモノハ其ノ本流ニモ著シク影響ヲ及ホスモノト被認候ニ付是等ノモノハ同條第三號ニ依リ
認可ヲ受ケルヲ要スル義ト御承知相成度

十九 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル埋立ノ免許ニ關シ免許願書及添付圖書ニ記

載ノ事項ヲ變更シ又ハ免許條件ヲ變更セムトスルトキハ更ニ認可ヲ受クヘキ義ト御承知相成度
二十 公有水面占用ノ許可ヲ受ケテ水産物養殖場又ハ乾船渠ヲ築造シタル者其ノ地盤ノ所有權ヲ
取得セムトスル場合ハ埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ其築造ニ關スル手續ヲ履マシムルコトニ
御取扱相成度

二十一 法ノ附則第二項ニ依リ處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附セムトスルトキ
ハ施行令第三十二條第二號乃至第七號ニ該當スル埋立ノ免許ニ對スルモノニ就テハ當省大臣ノ
認可ヲ受ケルヲ要スル義ト御了知相成度

二十二 大繩權ハ土地所有權ニ非スシテ埋立免許權トナルニ付法ノ附則第二項ニ依リ貴官ノ定ム
ル期限内ニ實施設計認可ノ申請ヲ爲サシメ且其ノ他ノ必要ナル條件ヲ附スルコトニ御取扱相成
度

二十三 左ニ掲ケル事項ハ遲滯ナク其ノ要領ヲ當省大臣ニ報告セラレ度

- 一 埋立免許願書ノ受理
- 二 埋立ノ免許ノ拒否
- 三 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ要セサル埋立ノ免許
- 四 法第六條ノ規定ニ依ル裁定
- 五 法第十條ノ規定ニ依ル處分
- 六 法第十三條ノ期間ノ伸長ノ許可及法第三十四條第一項但書ノ規定ニ依ル埋立免許ノ効力ノ

七 法第二十二條ノ竣功認可
 二十四 本通牒ハ施行令第三十三條ノ水産物養殖場又ハ乾船渠ノ築造ニ關シ準用アルモノト御了知相成度

○公有水面埋立ニ關スル護岸等敷地ト水面使用ノ件

(大正元年十一月十六日土第七八八號ノ内)
 (各地方長官土木局長通牒)

公有水面埋立ノ場合ニ於テ其埋立地ト水面トノ限界ハ護岸石垣等ノ天端ヲ以テ限界トシ埋立區域外護岸石垣等ノ敷地ニ要スル水面ハ別ニ使用ノ手續ヲ要スル事ニ相成居候處右使用手續ハ今後之ヲ省畧スルコトニ決定相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

○公有水面埋立ニ關スル件

(大正十一年四月二十日發甲第一號)
 (各省次官宛内務次官通牒)

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知相成度
 一 國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於ケル公有水面埋立法第四十二條ノ規定ニ依ル埋立ノ承認又ハ竣功ノ通知ニ付テハ同法施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ必要ナル手續ヲ履踐スルコトニ致度
 二 埋立地(陸地)ト公有水面トノ境界ハ潮汐干満ノ差アル水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル

滿潮位、其ノ他ノ水流水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコト

○公有水面埋立ニ關スル取扱方ノ件

(大正十二年一月十日發土第二號)
 (各地方長官宛土木局通牒)

標記ノ件客年四月廿日發土第三五號ヲ以テ及通牒置候次第モ有之候處更ニ左記事項御承知ノ上御處理相成度

記

- 一、曩ニ通牒シタル通河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ公有水面埋立法ノ適用ナキモ河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ其敷地カ國ノ所有ニ屬スルモノニ限リ本法ノ適用アルモノトス
- 二、工事ノ施行上必要ナル設計變更ト認メラル、場合ヲ除クノ外埋立區域ヲ擴張シ埋立ノ面積ヲ増加セムコトヲ出願シタルトキハ其ノ部分ニ對シテハ法第三條ニ依リ地元市町村會ノ意見ヲ徵シ且令第十七條第一項ニ該當セサル埋立ナルハ免許料ヲ徵收スル等總テ新規ノ埋立トシテ處理セラル、コト
- 三、法第十一條ノ告示ヲ爲シタル後免許ノ効力消滅シ又ハ告示シタル事件ノ要領ニ變更ヲ來シタルトキハ更ニ其ノ旨ヲ告示セラル、コト
- 四、令第十八條但書ニ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル云々トアルハ地方公共團體カ實際ニ其ノ費用ヲ支出シ又ハ支出シタル場合ニ限ルモノニシテ且ツ其目的

カ河川港灣其ノ他ノ公有水面ノ利用又ハ保全ノ爲メナラサルヘカラス例ヘハ專ラ家屋田畑等ノ保護ヲ目的トスル堤防ニ要スル費用ノ如キハ之ヲ含マサルモノトス

五、大正十一年四月廿日發士第三五號通牒左記第十二條依リ免許料歸屬ノ割合ヲ定ムル標準ト爲スヘキ國カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ノ内ニハ國庫補助金ヲ含ミ地方分擔金ヲ除外ス地方公共團體カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ノ内ニハ地方分擔金ヲ包含シ國庫補助金ヲ除外ス地方公共團體相互間ニ付テモ此ノ例ニ依ル

六、地方公共團體ニ於テ設備負擔ヲ爲スモノヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル物揚場、繫船岸壁、護岸、堤塘、道路、其ノ他ノ國ノ營造物タルヘキモノハ令第二十七條ニ依リ之ヲ國ニ歸屬セシムヘキモノトス

○官ニ屬スル公有水面埋立並使用規程

(明治二十三年十月二十日) (內務省訓令第三六號)

第一條 第二條、第三條第四條(公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第五條 大工工ニハ埋立法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ作ラシメ之ヲ命令書ニ附屬セシムヘシ本條ノ場合ニ於テ埋立ノ區域ヲ數區ニ分チ着手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成工ニ妨ケナク且少公益ニ害ナキ限リ其ノ成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第七條 舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面又ハ河川敷地ヲ其儘使用セムコトヲ出願スルモノアルトキハ前々條ノ例ニ準シ命令書ヲ下附シテ之ヲ免許スヘシ但シ本條ノ場合ニ於

テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシムヘシ

第八條 (公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第九條 水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障礙ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條 第十一條第十二條(公有水面埋立法ノ施行ニ依リ消滅)

第十三條 公有水面ノ埋立使用及河川敷地ノ使用ハ特ニ其ノ處分ヲ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議スヘシ但シ公有水面ニシテ使用ノ慣行アルモノニ限リ地方ノ狀況ニ依リ特ニ其ノ處分ヲ委任スルコトアルヘシ其ノ本大臣ノ指令ヲ得テ下附シタル命令書設計書圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

○公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第二號及第四號ニ依ル河川港灣指定ノ件

(大正十一年四月八日) (內務省告示第八〇號)

四號ニ依ル河川港灣指定ノ件

公有水面埋立法施行令第三十二條第一項第二號及第四號ニ依リ左ノ河川及港灣ヲ指定ス

信濃川、關川、木曾川、(其ノ他ノ河川港灣ハ省署ス)

鐵道軌道

○地方鐵道法

(大正八年四月九日) (法律第五二號)

第一條 本法ハ軌道條例ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本法ヲ適用ス道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二吋六吋ト爲スコトヲ得

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ己ムトヲ得サル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第七條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ募集スルコトヲ得ス社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス鐵道ノ附屬物件ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ貸渡又ハ讓渡スルコトヲ得ス

第九條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營ムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ収支概算書

第十三條 免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス
免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 線路實側圖
- 二 工事方法書
- 三 建設費豫算書
- 四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本
工事施行ノ認可ニハ工事ノ着手及竣功ノ期限ヲ附ス
- 第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り第十二條第二項
又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
- 第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス
 - 一 線路用地
 - 二 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地
 - 三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地
 - 四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ從事スル鐵道係員ノ駐
在所等ノ建設ニ要スル土地
 - 五 鐵道ニ要スル車輛、器具機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫
等ノ建設ニ要スル土地

第十六條 道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ横斷シテ鐵道若ハ

軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ横斷シテ道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ヲ造設
スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ共用又ハ變
更ヲ命スルコトヲ得
設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁決
ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬スル權利義務ヲ他人ニ
讓渡スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ
 - 二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ
 - 三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事着手ノ期限迄ニ工事ニ着手セサルトキ
 - 四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得
第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス
第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ
受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ發着時刻及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ク
ヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ發着時刻及度數ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第二十三條 監督官廳ハ監査員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事運輸保線ノ狀態、會計及財産ノ實況ヲ監査
セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事運輸保線ノ狀態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當
ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改築又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必
要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得
監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲ス
ルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル
證票ヲ携帶スル者ヲ無賃ニテ乗車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連
絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサ
ルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運輸ノ
管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス
營業又ハ運輸ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シ
タル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止
シ又ハ廢止スルコトヲ得ス
地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割合ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ
負フ

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトス
ルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
地方鐵道ノ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルト
キハ地方鐵道業者ハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收ヲ申請スルコトヲ得
第三十一條 買収價格ハ最近ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平
均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額トス前項ノ益金トハ營業收
入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度